

2026 年 12 月期 中間決算説明会資料

Investor Briefing Shikoku Kasei HD Corp. For FY 2026 2Q

2026年8月25日

四国化成ホールディングス株式会社
(東証プライム4099)

1. 連結業績の概要

Consolidated Financial Results

2. 2026年12月期の通期見通し

Financial Forecast for the Fiscal Year Ending 2026

3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

Action to Implement Management that is Conscious of Cost of Capital and Stock Price

4. Challenge 1000「STAGE 3」計画

Challenge 1000 Stage 3 Plan Overview

1. 連結業績の概要

Consolidated Financial Results

ファインケミカルが引き続き好調に推移した他、各セグメントで前年を上回る進捗であったことから、中間時点での売上高及び各段階利益で過去最高を記録した。

(百万円)
Million yen

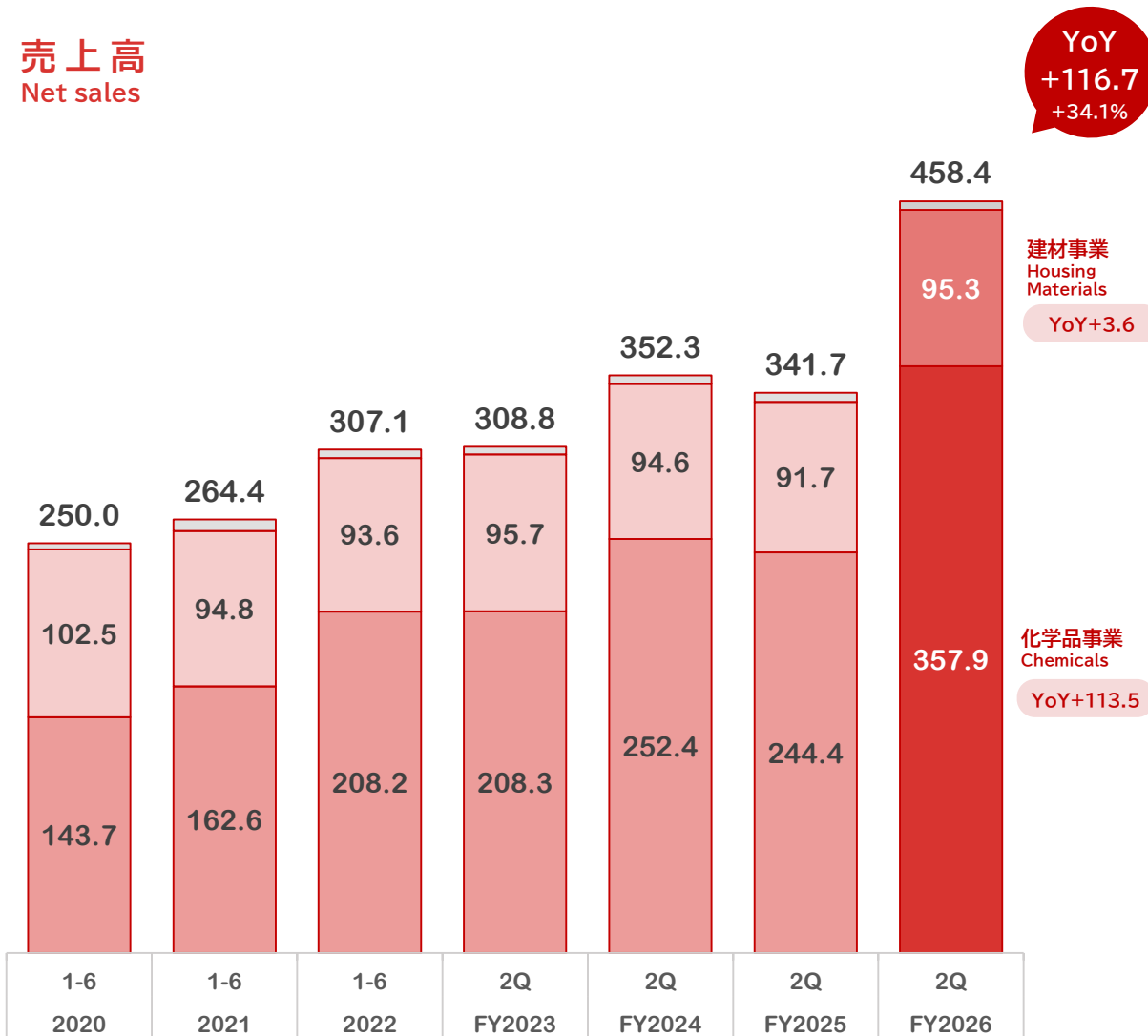
	FY2025 2Q	FY2026 2Q	増減 Change ／ 増減率 Rate	備考 Remarks
売上高 Net Sales	34,172	45,841	+11,669 +34.1%	・化学品事業は、ファインケミカルの販売が好調で増収 ・建材事業は、値上げ浸透やM&Aで微増収
営業利益 Operating profit	5,253	9,439	+4,185 +79.7%	・ファインケミカルの販売増により大幅増益
経常利益 Ordinary profit	5,205	9,692	+4,486 +86.2%	・為替差損益 183 (YoY+720) ・受取利息 209 (YoY+25)
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	3,729	6,663	+2,933 +78.7%	・投資有価証券売却損益 89 (YoY▲57) ・固定資産除却損 ▲59 (YoY▲20)
為替レート (PL換算用) Exchange rate	1USD 150円 1EUR 161円 1RMB 20.2円	1USD 158円 1EUR 185円 1RMB 22.9円	売上高+12.6億円 営業利益+8.6億円	・前年比増減に含まれるPL円換算時の影響額(化・建計) 外貨建取引における換算レート変動の影響のみを抽出しております。円貨建取引においても実質的に為替レートの変動に影響を受ける取引は多くありますが、含まれておりません。
ROE	8.8%	13.6%	+4.8%	

売上高と営業利益の推移(通期累計)

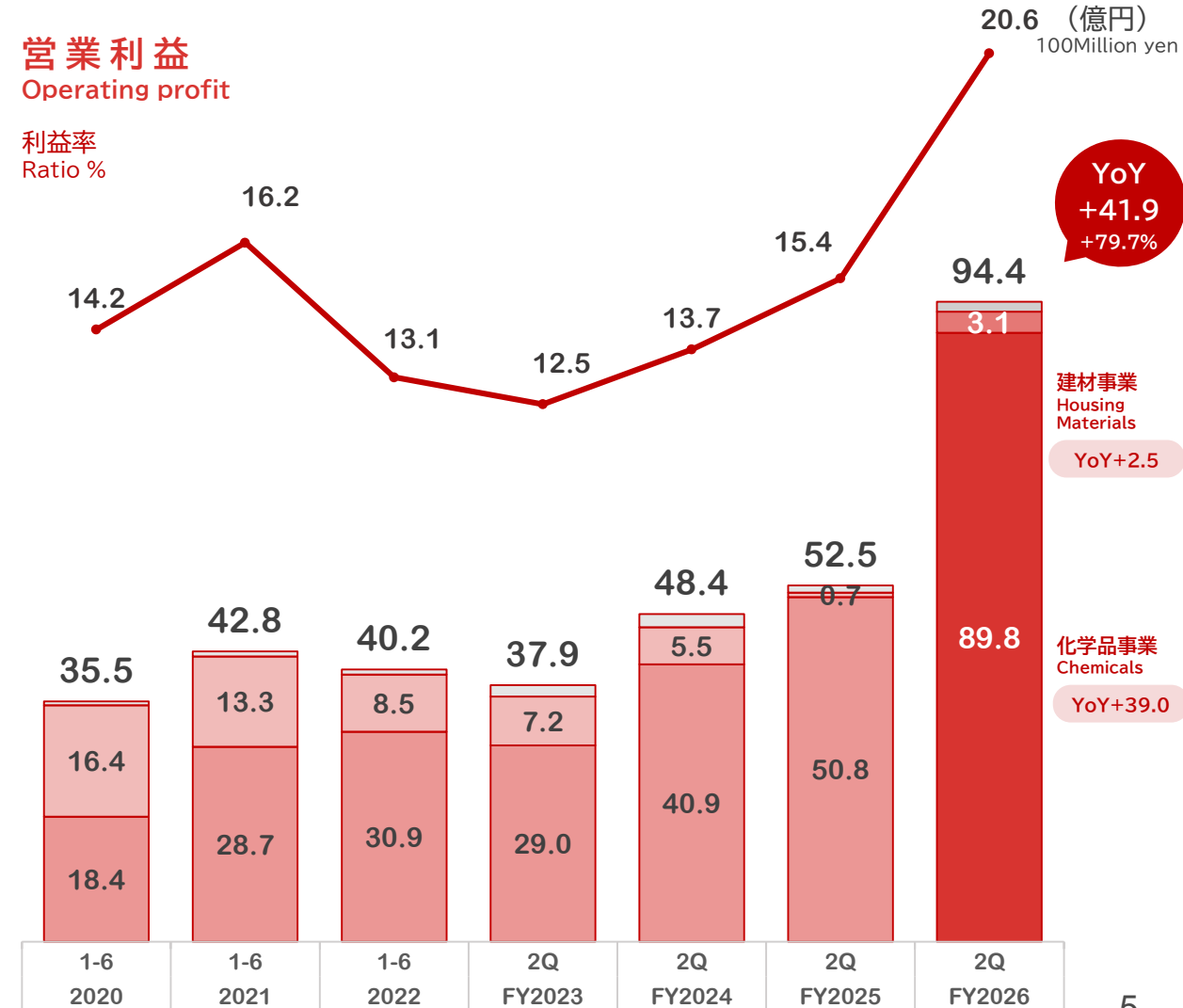
Trends in Net sales and Operating profit (YTD)

売上高は化学品が増収(+113.5)、建材が増収(+3.6)で、全社で増収(計+116.7)
 営業利益は化学品が増益(+39.0)、建材が増益(+2.5)で、全社で増益(計+41.9)

売上高 Net sales



営業利益 Operating profit 利益率 Ratio %



セグメント別の売上高概況

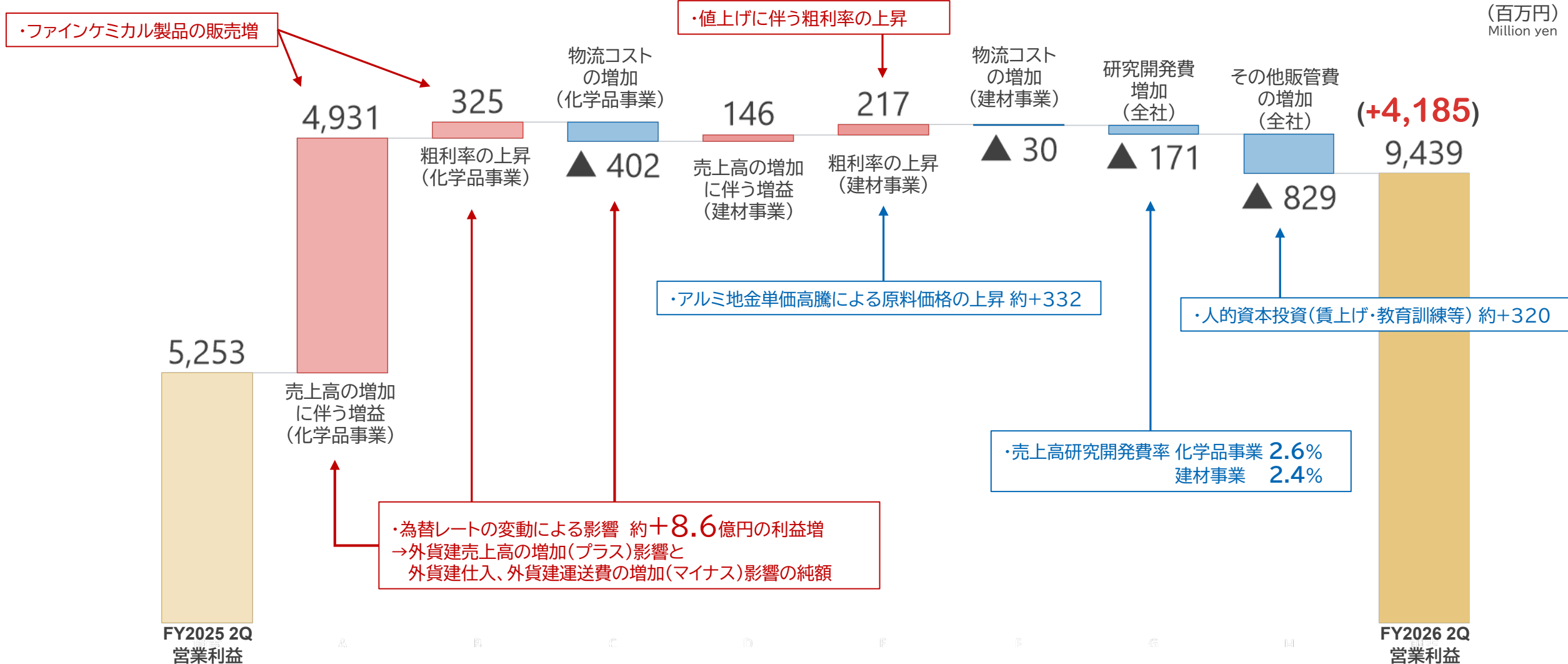
Sales Overview by Segment

セグメント		2026年12月期 2Q累計 事業概況	
無機化成品	YoY		- 不溶性硫黄はアジア向け輸出が好調に推移し増収 - 二硫化炭素は輸出販売が好調に推移し増収 - Timurayaの新規連結により約25億円の増収効果
有機化成品	YoY		- ネオクロールは前期低調からの反動増で増収 - サニタリー製品は販売が好調に推移し増収、「WASHMANIA」の実店舗販売も好調に推移 - Timurayaの新規連結により、YoY、QoQで約8億円の増収効果
ファインケミカル	機能材料	YoY	- 樹脂硬化剤(イミダゾール)は好調な需要により増収 - 樹脂改質剤は好調な既存案件や新規案件の広がりから増収 - 半導体プロセス材料は好調な半導体市況を背景に増収
			
	電子化学材料	YoY	- タフエースは前期2Q低調の反動により増収 - GliCAPIはAI関連需要の増加を背景に販売が好調に推移し大幅増収
			
建材	YoY		- 壁材は昨年4月に実施した値上げやM&Aの実施により増収 - エクステリアは長引く住宅着工戸数の減少や働き方改革に伴う工期遅延の影響により減収
全社		YoY	

営業利益の変動要因分析(通期累計)

YoY Changes in Operating profit

化学品事業の各セグメントにおいて販売が好調に推移したことで大幅な増益となった。
特に収益性の高いファインケミカル製品の販売増が増益に寄与した。

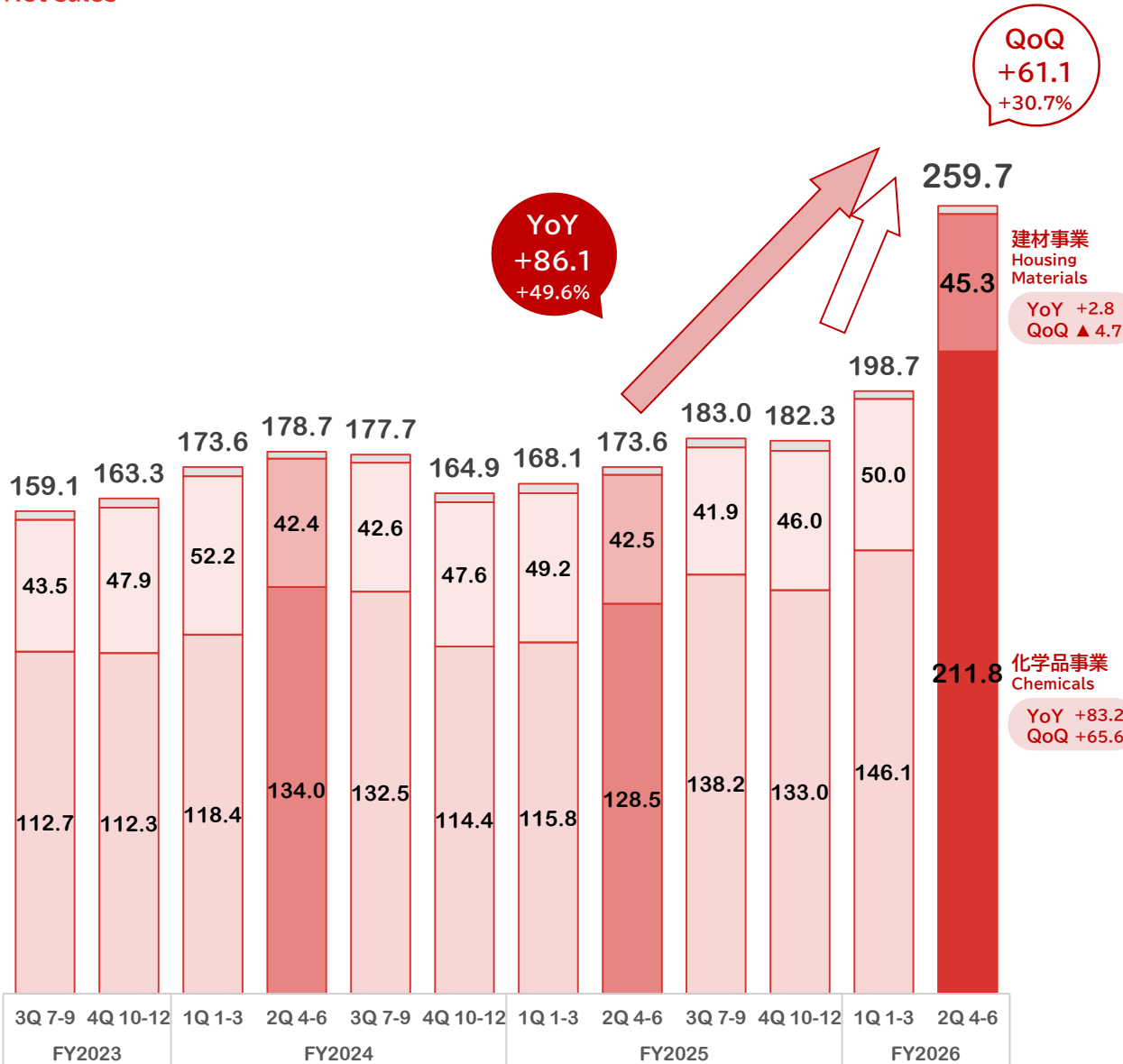


売上高と営業利益の推移(四半期対比)

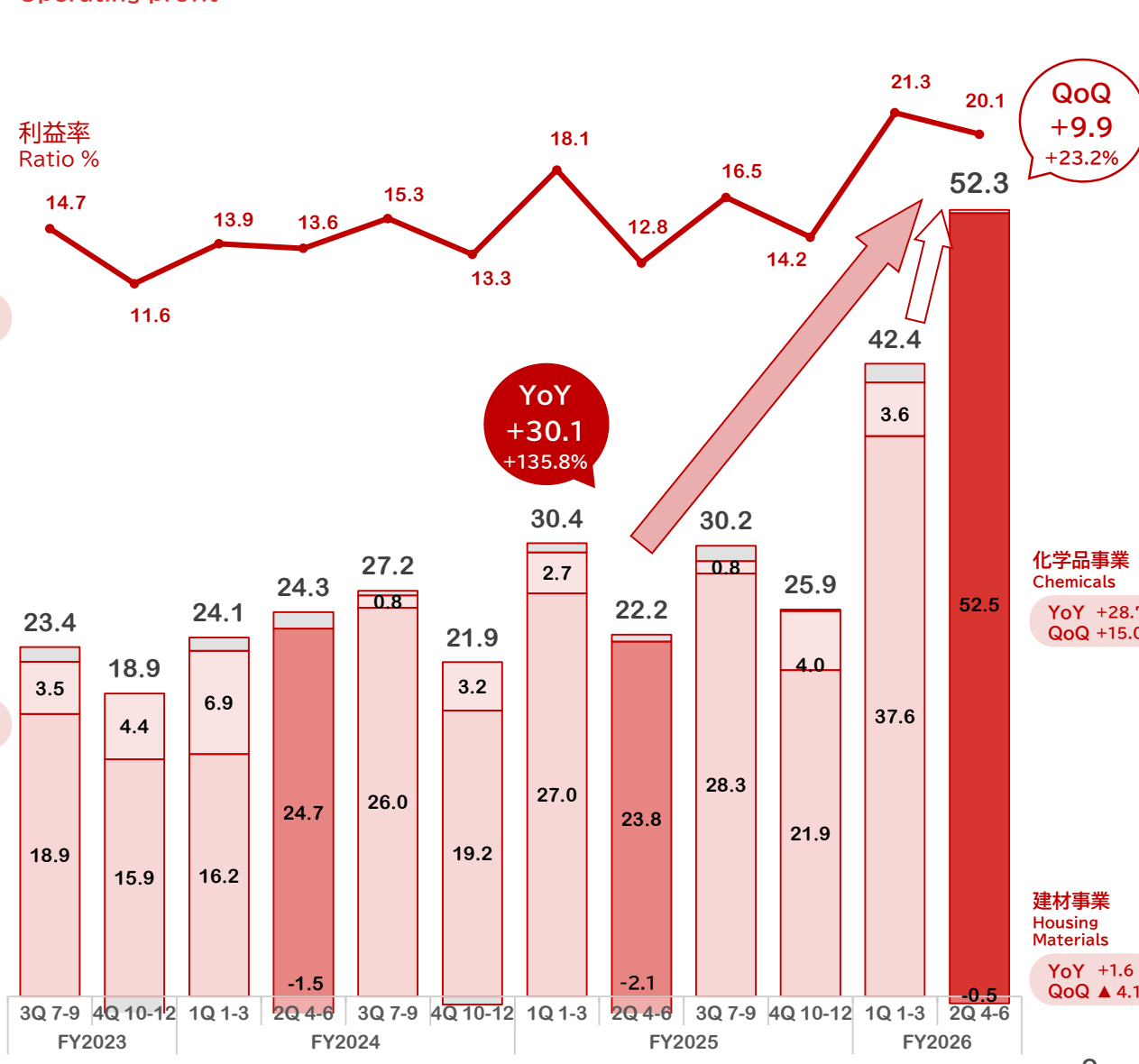
Trends in Net sales and Operating profit (QTD)

(億円)
100Million yen

売上高 Net sales



営業利益 Operating profit



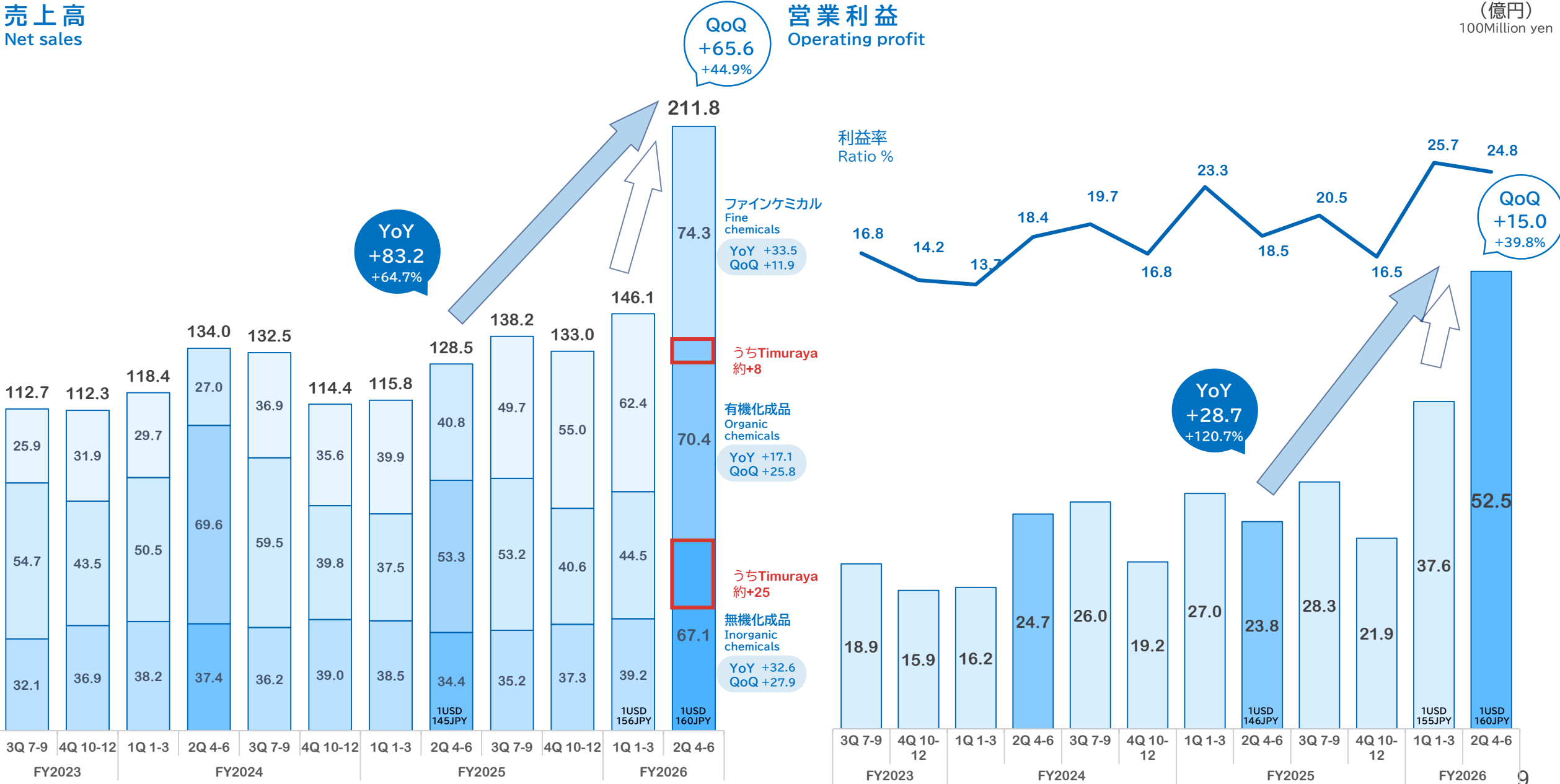
セグメント別の概況 化学品事業（四半期対比）

Operating results by segment : Chemicals (QTD)

(億円)
100Million yen

売上高
Net sales

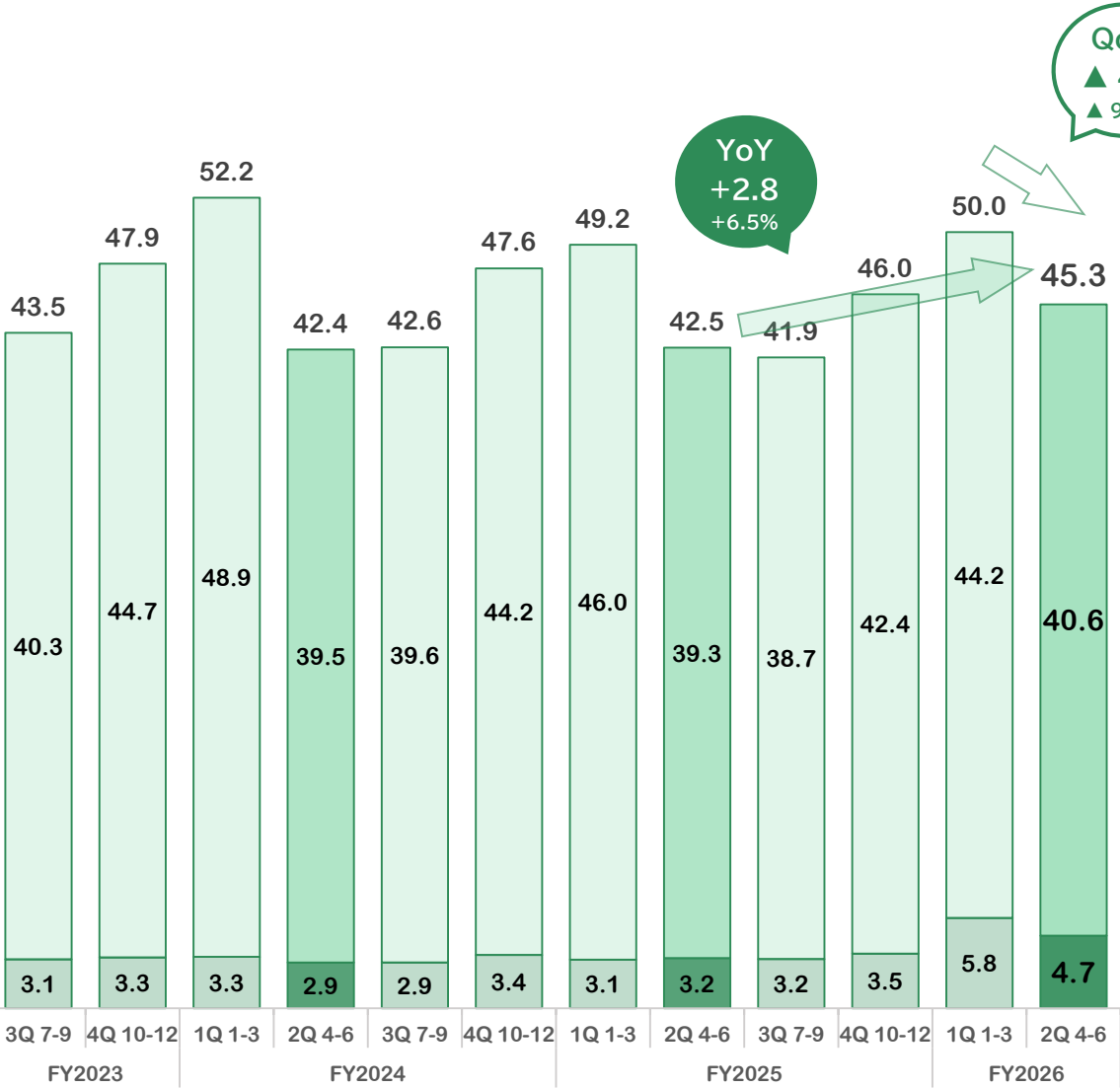
営業利益
Operating profit



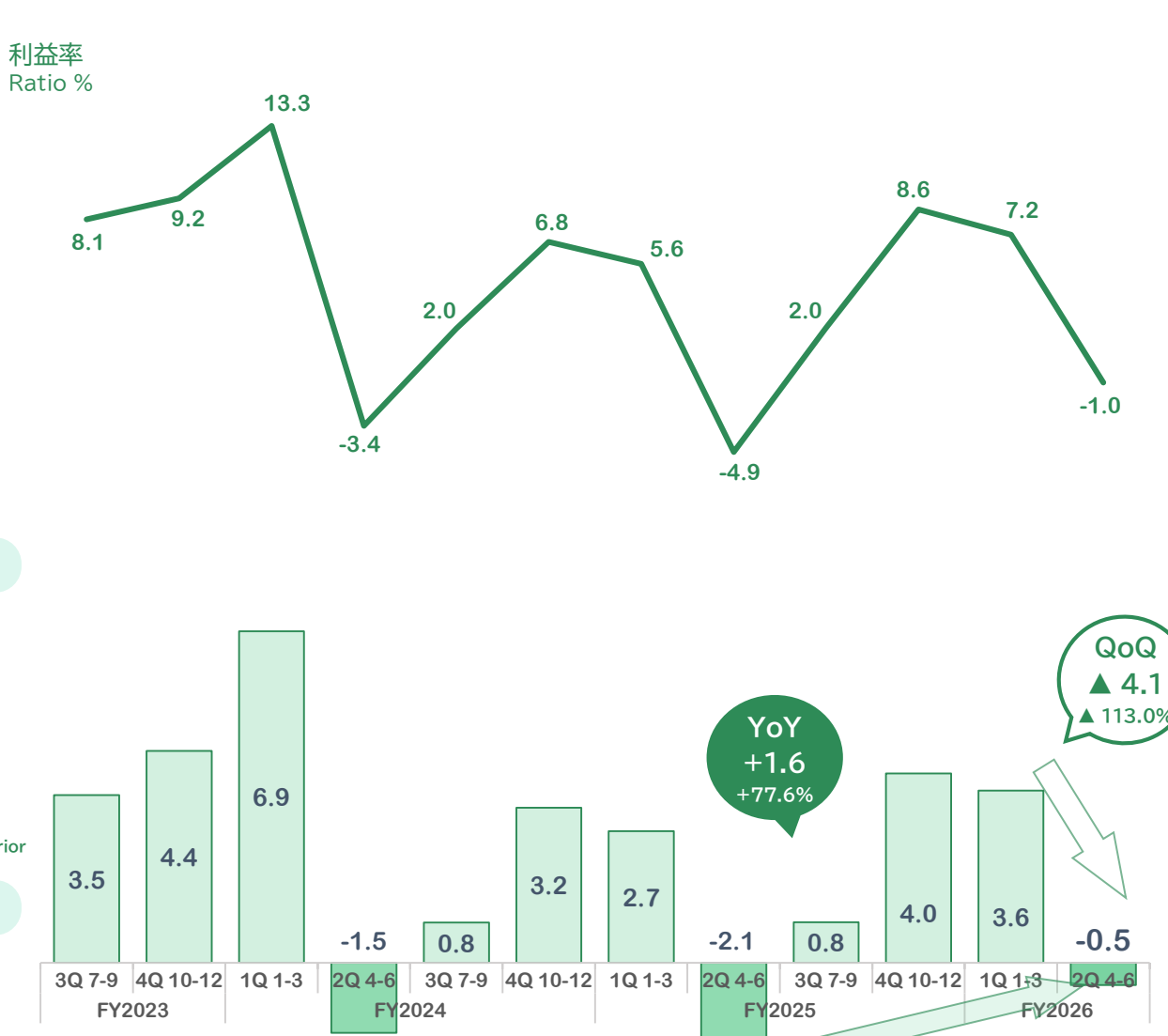
セグメント別の概況 建材事業（四半期対比）

Operating results by segment : Housing Materials (QTD)

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit



2. 2026年12月期の通期見通し

**Financial Forecast
for the Fiscal Year Ending 2026**

連結業績予想

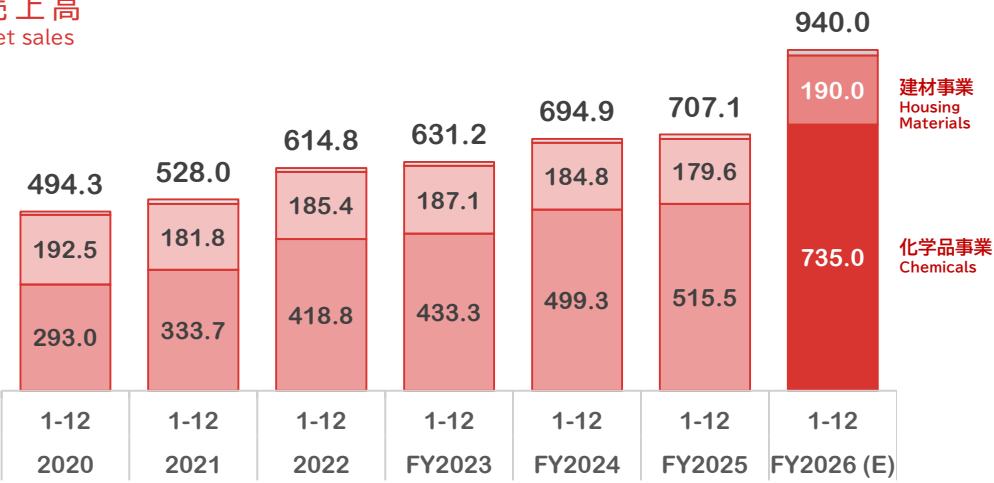
Forecast of Consolidated Financial Results

2Q累計の売上高及び各段階利益は無機化成品・ファインケミカルの好調を背景に、
想定を大きく上回る進捗となったため、売上及び各段階利益の予想を上方修正する。

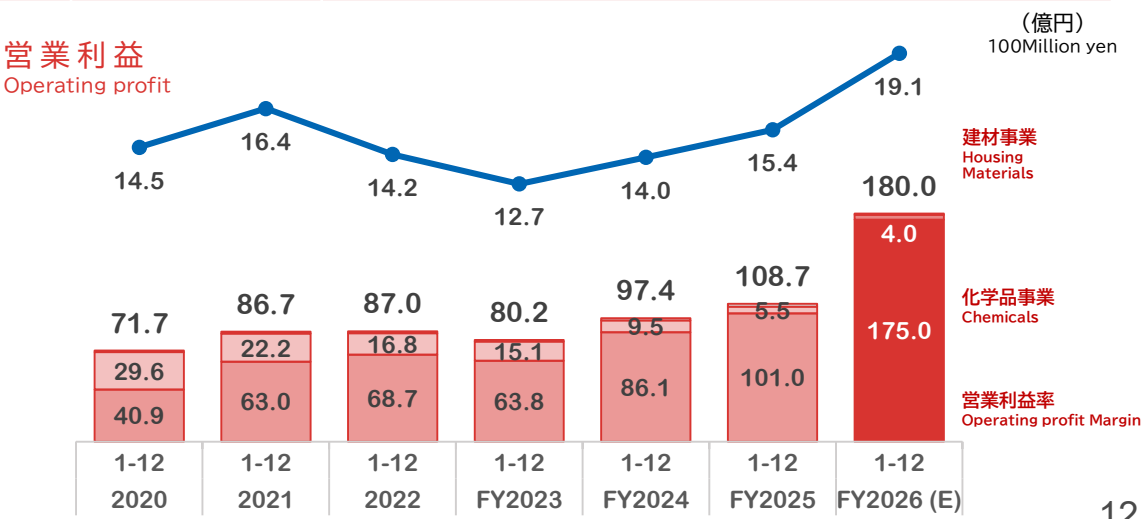
(百万円)
Million yen

	FY2026 1Q予想	FY2026 2Q 修正予想	増減 Change 増減率 Rate	FY2026 2Q	1Q予想対比 進捗率	備考 Remarks
売上高 Net Sales	88,000 (化学品)66,500 (建材)20,000	94,000 (化学品)73,500 (建材)19,000	+6,000 +6.8%	45,841 (化学品)35,787 (建材)9,529	52% (化学品)54% (建材)48%	・化学品事業の売上高は、無機化成品・ファインケミカルの販売が好調に推移したことにより、計画を上回る進捗となった。 ・建材事業の売上高は、壁材は計画を上回ったが、エクステリアが数量減により計画を下回り、全体でも計画を下回る進捗となった。 ・通期の売上高予想は、好調な化学品事業の足元の状況を勘案し上方修正を行う。 ・化学品事業の営業利益は、ファインケミカルの販売増によってミックスが改善し、計画を上回る進捗となった。 ・建材事業の営業利益は、エクステリアの下振れに加え、アルミ地金価格上昇の進行により、計画を下回る進捗となった。 ・経常利益は、為替が円安基調で進行したため、2Qで183百万円の為替差益が発生し、想定を上回る進捗となった。 ・全体では収益性の高いファインケミカルの伸長によって、各段階利益は計画を上回る進捗となっており、上方修正を行う。 ※本連結業績予想には、太陽ホールディングス株式会社が2026年3月31日付で公表している同社株式の公開買付けの開始予定に関連して、当社が保有する同社株式の売却の可能性による影響を織り込んでおりません。また、当該株式の売却又は当該株式に係る公開買付けへの応募について、現時点で決定した事実はありません。
営業利益 Operating profit	14,400 (化学品)12,900 (建材)1,200	18,000 (化学品)17,500 (建材)400	+3,600 +25.0%	9,439 (化学品)8,980 (建材)313	66% (化学品)70% (建材)26%	
経常利益 Ordinary profit	14,500	18,400	+3,900 +26.9%	9,692	67%	
親会社株主に帰属する 当期純利益 Profit attributable to owners of parent	10,000	12,600	+2,600 +26.0%	6,663	67%	
想定為替レート(PL換算用) Exchange rate	1USD 150円 1EUR 175円 1RMB 21.0円	1USD 150円 1EUR 175円 1RMB 21.0円	—	1USD 158円 1EUR 185円 1RMB 22.9円		

売上高
Net sales



営業利益
Operating profit



※前年比較及びグラフの表示は、2022年度以前の実績を当年度と同一期間(1月～12月)に調整しております。

設備投資及び減価償却費について

Capital investment and Depreciation

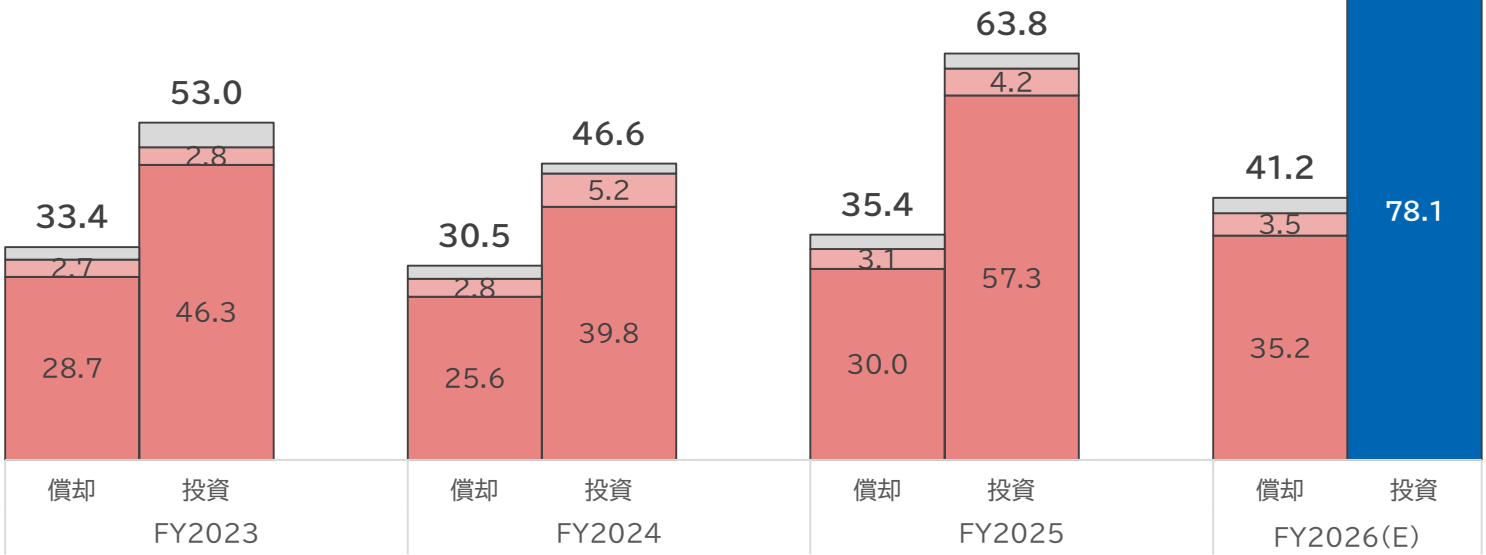
【2026年12月期2Qの主要な設備投資進捗】

- ・GliCAP増産対応 約3.2億円
- ・徳島工場実験事務所棟 関連費用 約3.2億円
- ・丸亀工場 維持更新等 約4億円
- ・徳島工場 維持更新等 約2.6 億円
- ・関係会社 生産設備投資等 約10.5億円

- 化学品事業
- 建材事業
- その他

(億円)
100Million yen

【2026年12月期の主な設備投資計画】



- 環境対応**
 - ・脱炭素関連投資 15億円
- 研究開発**
 - ・徳島工場実験事務所棟 関連費用 22億円
 - ・R&Dセンター 新棟関連費用 18億円
- 建材**
 - ・DX関連投資 1.4億円
- 化学品生産設備**
 - ・GliCAP増産対応 5億円
 - ・丸亀工場 維持更新等 21億円
 - ・徳島工場 維持更新等 12億円
 - ・坂出工場 関連投資 18億円
 - ・関係会社 生産設備投資等 22億円

【株主還元方針】

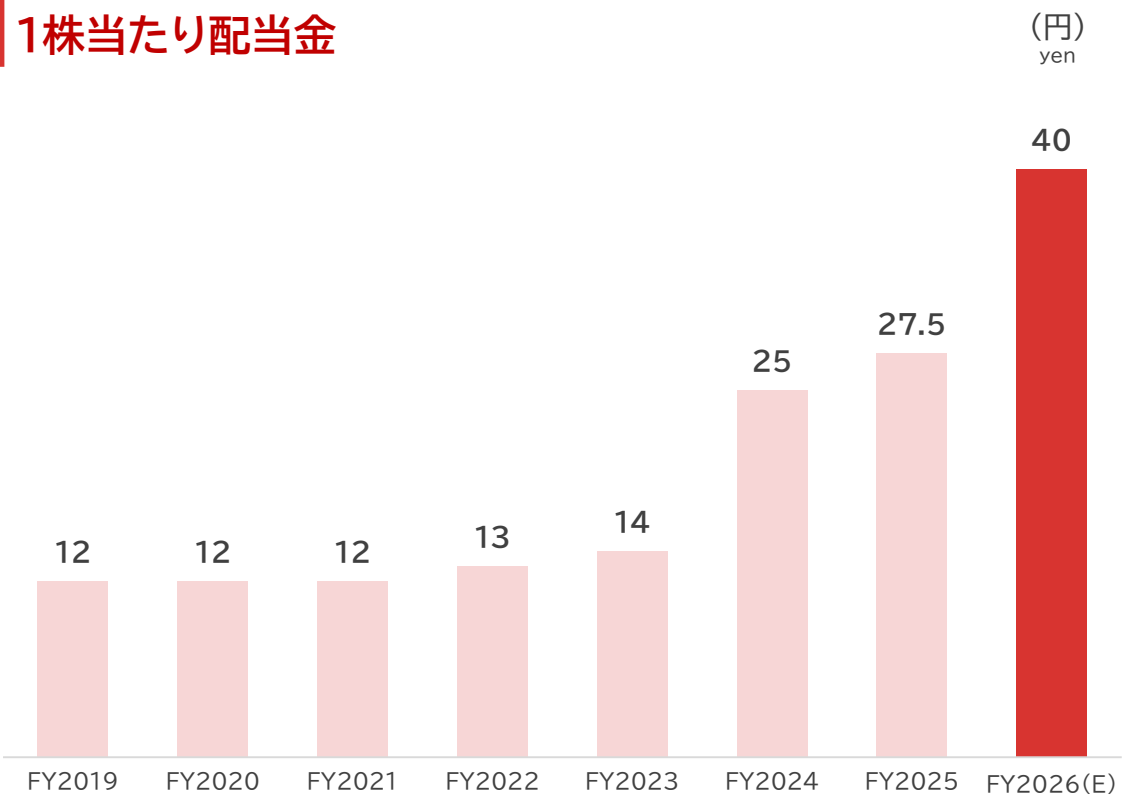
- ・配当性向 30%
- ・総還元性向 50%
- ・DOE(連結株主資本配当率) 3%

長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において、連結業績を基準として上記還元方針を目指す。

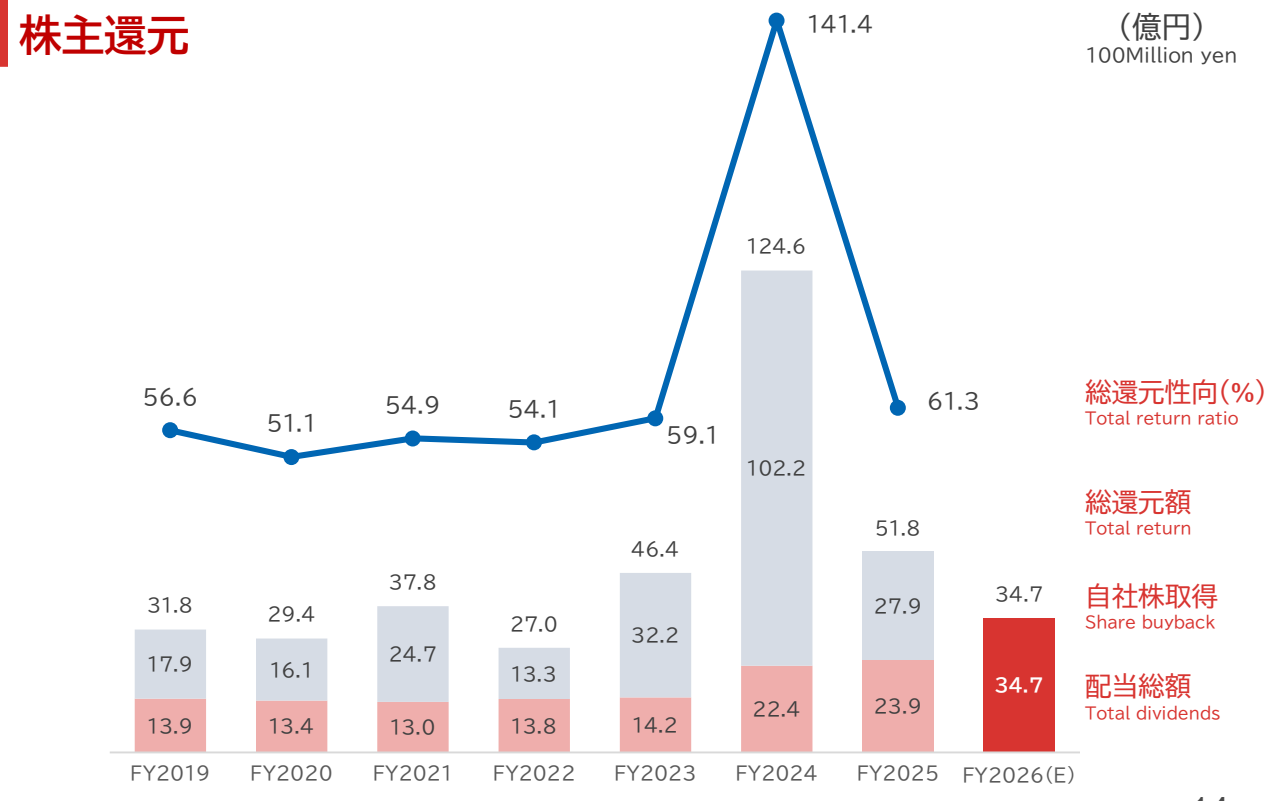
【2026年12月期の株主還元政策(予想)】

- ・1株当たり40円(中間15円※・期末25円)とする計画です。
- ・株主還元方針を前提に、機動的な自己株取得を行い、余剰資本の圧縮と株式価値の向上に努めてまいります。

1株当たり配当金



株主還元

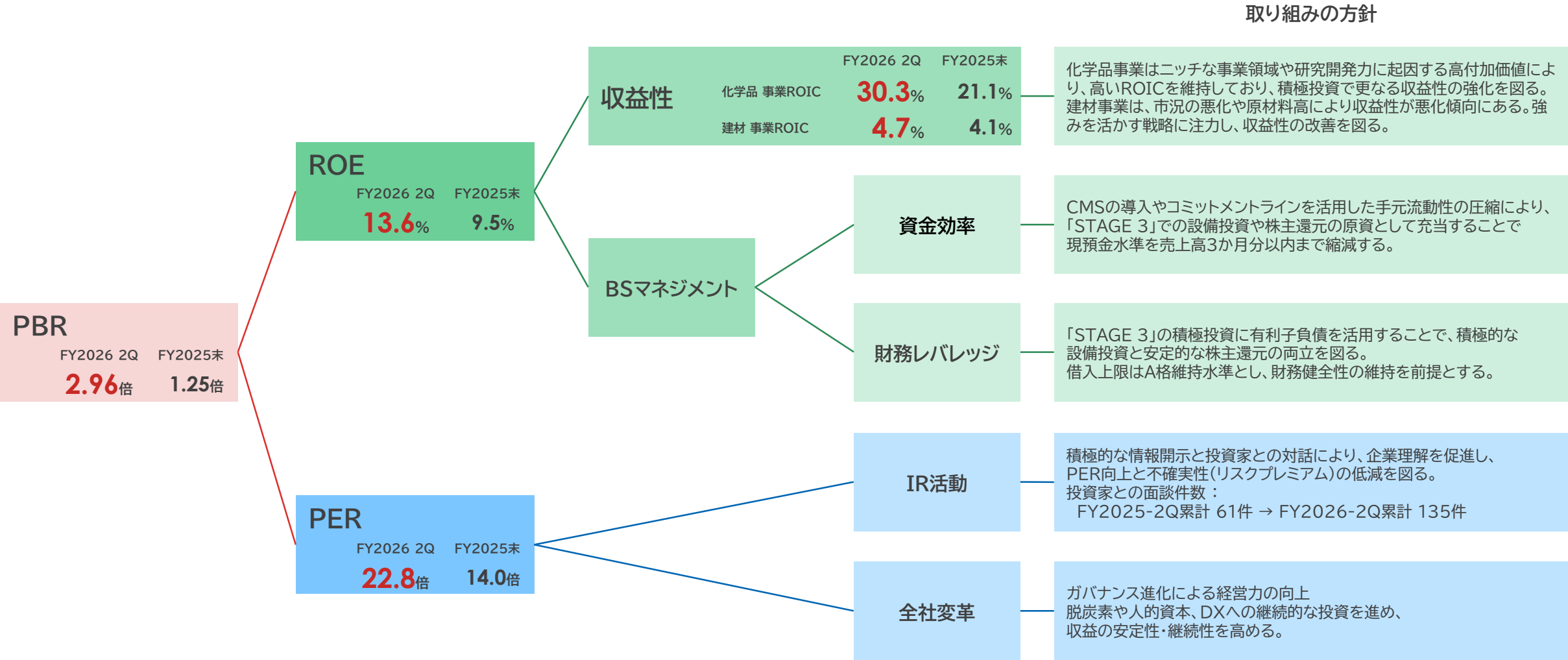


※2026/7/1付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり配当金は分割考慮後の数値に調整しております。

3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

**Action to Implement Management
that is Conscious of Cost of Capital
and Stock Price**

ファインケミカルを中心とした成長期待から、PBRは大幅に上昇。(FY2025末 1.25倍 → FY2026 2Q末 2.96倍)
 今後は、収益性の更なる向上と、余剰資本の圧縮により、市場期待に応えるROE水準の維持・引き上げを図るとともに、ガバナンス進化により経営力を向上させ、株式市場への発信力を一層高めていく。



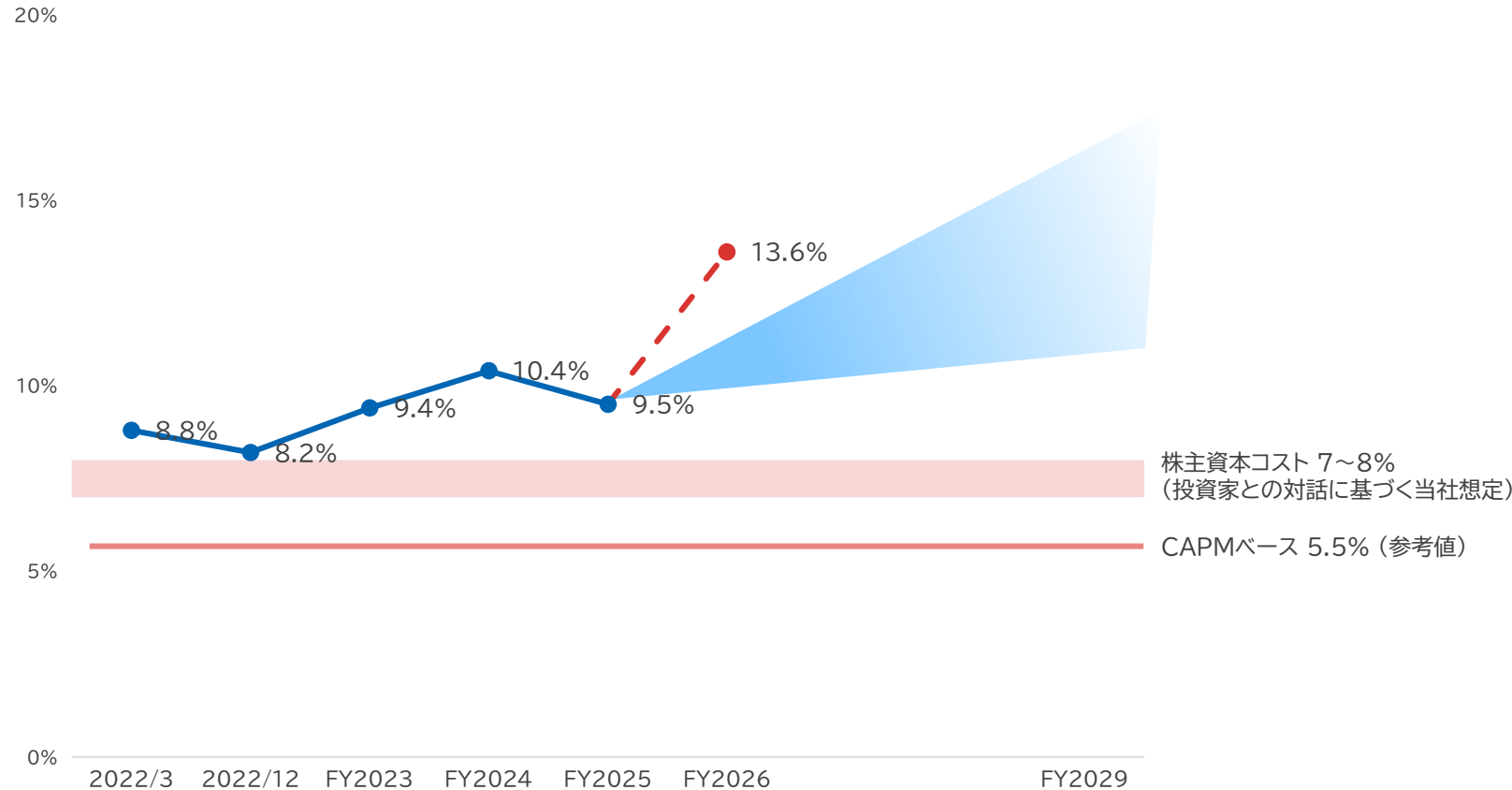
※四半期のROIC・ROEは年率換算を行い、2Qではリターン部分を2倍で計算しております。
 ※PBR、PERは2Q末の株価終値3,525円及び期末日時点の自己株式を除く発行済み株式数86,498,340株を用いて算出
 (2026/7/1付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、株価及び発行済み株式数は分割考慮後の数値に調整しております。)

資本効率性の向上について

Enhancing Capital Efficiency

積極的な成長投資による利益水準(分子)の引き上げと純資産額(分母)のコントロールを行う。
減価償却負担の増加が見込まれる「STAGE 3」においても、成長のための投資と安定的かつ機動的な株主還元を両立させて、
市場の期待(株主資本コスト7~8%)を超えるROE水準(10%以上)を維持する。

ROEの推移



株主資本コストを安定的に上回る
ROE水準の維持・向上にむけて

利益水準の引き上げ

事業戦略の強化・加速

資本効率向上

余剰資本を最小化する
BSマネジメントの改善

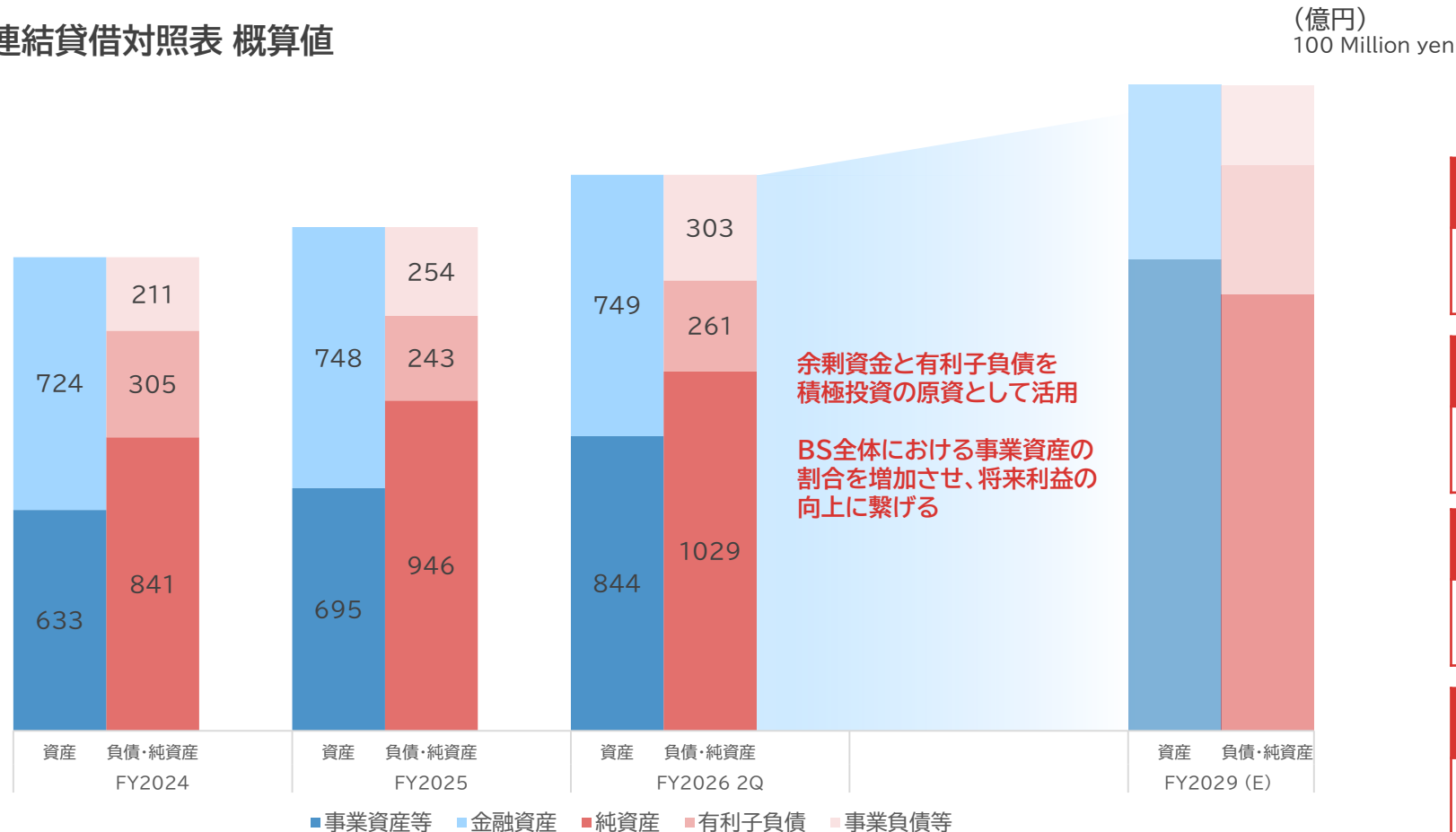
資本コストの低減

IR活動による企業理解の促進
ガバナンス改善による経営の質向上

金融資産(現預金+有価証券+投資有価証券等)として資金保持方針(売上高3か月分)を上回る現預金や有価証券を保有していることから、資本効率性を押し下げている。

今後は、CMS・コミットメントラインの導入により資金効率を高め、余剰な金融資産を成長投資に振り向け、事業資産に置き換えるとともに、獲得した営業キャッシュフローを更なる成長投資と株主還元へ振り向けていく。

連結貸借対照表 概算値



BSマネジメントの改善にむけて

成長分野・新規分野への積極投資

M&Aによる海外事業展開や
継続的な新規事業への投資

グループ内資金の効率運用

CMS導入により、グループ内の資金を
積極投資の原資として活用

金融資産の縮減

社債の売却や政策保有株式の持合解消

財務健全性

「STAGE 3」の積極投資に際しては有利子負債も活用するが、有利子負債調達はA格維持を前提とし、財務健全性を維持する。

Timuraya社取得によって、投下資本は前期末比約100億円増加している。
投資有価証券の売却・償還を約58億円実施したが、足元の株高の影響によって
投資有価証券残高は横ばいとなり、金融資産水準は依然として過大と認識。

連結貸借対照表(2026/6/30現在概算値)

【金融資産】

(現状と今後の方針)
Timuraya社取得に伴い現預金を活用したものの、利益の積み上がりや資金調達により手元流動性を維持した。また、株価上昇による投資有価証券の増加もあり、金融資産全体では前期末並みとなった。

	FY2025末	FY2026 2Q
	748億円	749億円
		(期初比+0.7億円)
(内訳)		
現預金	355億円	367億円
有価証券	118億円	111億円
投資有価証券	274億円	270億円

【事業用諸資産】

営業債権
棚卸資産
有形/無形固定資産

【余剰資本】

(現状と今後の方針)
預金保持方針は売上高3か月分を目安とする。CMSやコミットラインを活用し手元流動性の圧縮を図る。政策保有株は、取引先との対話を経たうえで、段階的に売却を進めており、今後も縮減を継続する。

余剰資本については、「STAGE 3」における成長投資に加え、人的資本・環境整備への投資へ優先的に充当する。株主還元は、現在の還元方針に沿って安定的・継続的に実施するが、投資案件を随時精査し、余剰部分は機動的な還元を検討する。

【事業投下資本】

(対比すべき利益指標)
事業別税引き後営業利益 → 事業別ROIC

	FY2025末	FY2026 2Q
【化学品】	356億円	472億円
		(期初比+116億円)
事業別ROIC	21.1%	30.3%
【建材】	95億円	92億円
		(期初比▲3.0億円)
事業別ROIC	4.1%	4.7%

【事業用諸負債】

営業債務
労働負債・引当金

【全社グループ投下資本】

(対比すべき利益指標)
税引後(営業利益+金融収益)
→ 全社ROIC

(現状)
現状のWACCは4.5~5.5%と認識。全社ROICはWACCを上回る水準にあるが、引き続きROIC-WACCスプレッド拡大に向けた施策を継続する。

	FY2025末	FY2026 2Q
	1,189億円	1,290億円
		(期初比+101億円)
全社ROIC	7.2%	11.0%

【将来獲得収益(FCF)】

(株主還元)
総還元性向は当期純利益の50%を目標として、機動的に実施

(内部留保)
リスク資金として成長投資と人的資本投資を最優先

【簿価純資産】

(対比すべき利益指標)
当期純利益 → ROE

(ROE目標)
成長投資を優先する局面においても、ROE10%を維持し、投資回収の進展と資本政策により、中長期的な資本効率の向上を目指す。

	FY2025末	FY2026 2Q
	937億円	1,022億円
		(期初比+84億円)
ROE	9.5%	13.6%

【有利子負債】

(今後の方針)
2029年目標の達成及び2030年以降の持続的成長に向けた積極投資に有利子負債を活用する。借入上限は格付(A-, R&I)を維持できる水準とし、中長期的にはD/Eレシオ0.3倍台をターゲット水準とする。

	FY2025末	FY2026 2Q
	243億円	261億円
		(期初比+17億円)

【将来純資産】

攻めの成長戦略と資本効率性を両立させるバランスシートマネジメントにより、ROE10%を維持する。

	FY2029末 目標
	1,250億円以下
ROE	10.0%以上

4. Challenge 1000「STAGE 3」計画

Challenge 1000 「STAGE 3」 Plan Overview

独創力で、“一步先行く提案”型企业へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする

財務目標

売上高

1,000億円

営業利益

150億円

ROE

10%

戦略の柱

事業変革方針

お客様のご要望起点から
当社からの提案起点へ

全社変革方針

2030年にありたい姿の
実現に向け6つの
全社変革方針を設定

積極投資

事業変革方針と全社変革方針を
後押しする積極投資を実施

SDGsの達成

レスポンシブル・ケアによる
環境保全に加え、更なる
社会課題の解決に向けSDGsの
達成に貢献する

四方よし

顧客

一步先の価値を

独創的で最先端の製品・サービスで、
新たな価値を提供する

従業員

挑戦と成長を

多様な働き方と挑戦による成長を
実感できる環境を作り、
豊かな人生を応援する

株主

還元方針

配当性向30%、総還元性向50%、
株主資本配当率(DOE)3%を
目指す

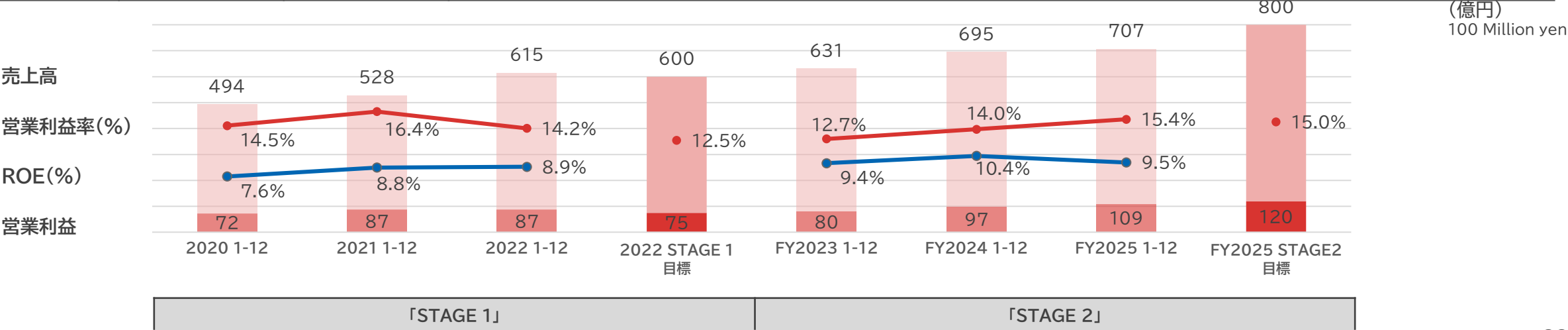
社会

より良い明日を

社会課題の解決に貢献し、
豊かな生活環境を実現する

(億円)
100 Million yen

	「STAGE 2」 目標	FY2025 実績	総括
化学品事業 売上高	500	515.5	無機化成品は、競合他社による安値攻勢により不溶性硫黄の販売価格が低下し目標未達。 有機化成品は、市場環境の変化により、北米市場で単価が大きく上昇し目標達成。 ファインケミカルは、新規開発品の販売量が大きく増加し、当初の「STAGE 3」目標を上回る進捗。
建材事業 売上高	275	179.6	シェアの低い住宅エクステリアに注力することでシェア拡大と売上成長を目指したが、長引く新設住宅着工戸数の 低迷から苦戦。得意分野である景観エクステリアに注力し、収益性の改善を図っている。
全社 売上高	800	707.0	化学品事業は「STAGE 2」目標を上回ったが、建材事業、新規事業が「STAGE 2」目標を下回ったことで、 売上高は「STAGE 2」目標未達となった。
営業利益	120	108.7	収益性の高いファインケミカルの販売が拡大したが、無機化成品、建材で売上が目標を下回ったことで 「STAGE 2」利益目標から10億円程度の未達となった。



※グラフの表示は、2022年度以前の実績を当年度と同一期間(1月～12月)に調整しております。

化学品事業

化学の力で、世界の進歩のために、
深化と進化を続ける会社

事業	ありたい姿	戦略シナリオ
無機化成品	取扱いが難しい素材を循環的に活用し、世界の技術革新や環境保全に貢献する	新プラントで製造する高品質品や、サステナブル原料を用いた不溶性硫黄の拡販 硫黄活用を起点に事業領域を拡大し、新たな価値を提案
有機化成品	環境・衛生を守り、世界中の人にキレイを届ける	水環境・衛生などの社会課題に応じて顧客ニーズを先取りし、独自技術やサービスで殺菌・洗浄の最適な提案を実現
機能材料	有機合成力をコアとした独創的な材料で最先端技術をリードする	独創的なキーマテリアルを安定供給し、業界標準として広く認知される
電子化学材料	独創的な新技術で世界のスタンダードを創出	電子デバイス・最先端半導体市場に、分子設計技術を活かした配合を創出し、トータルソリューションを提案

建材事業

人と自然に“よりよい巡り”をもたらすことで、
皆が安心して暮らせる街づくりに貢献

ありたい姿

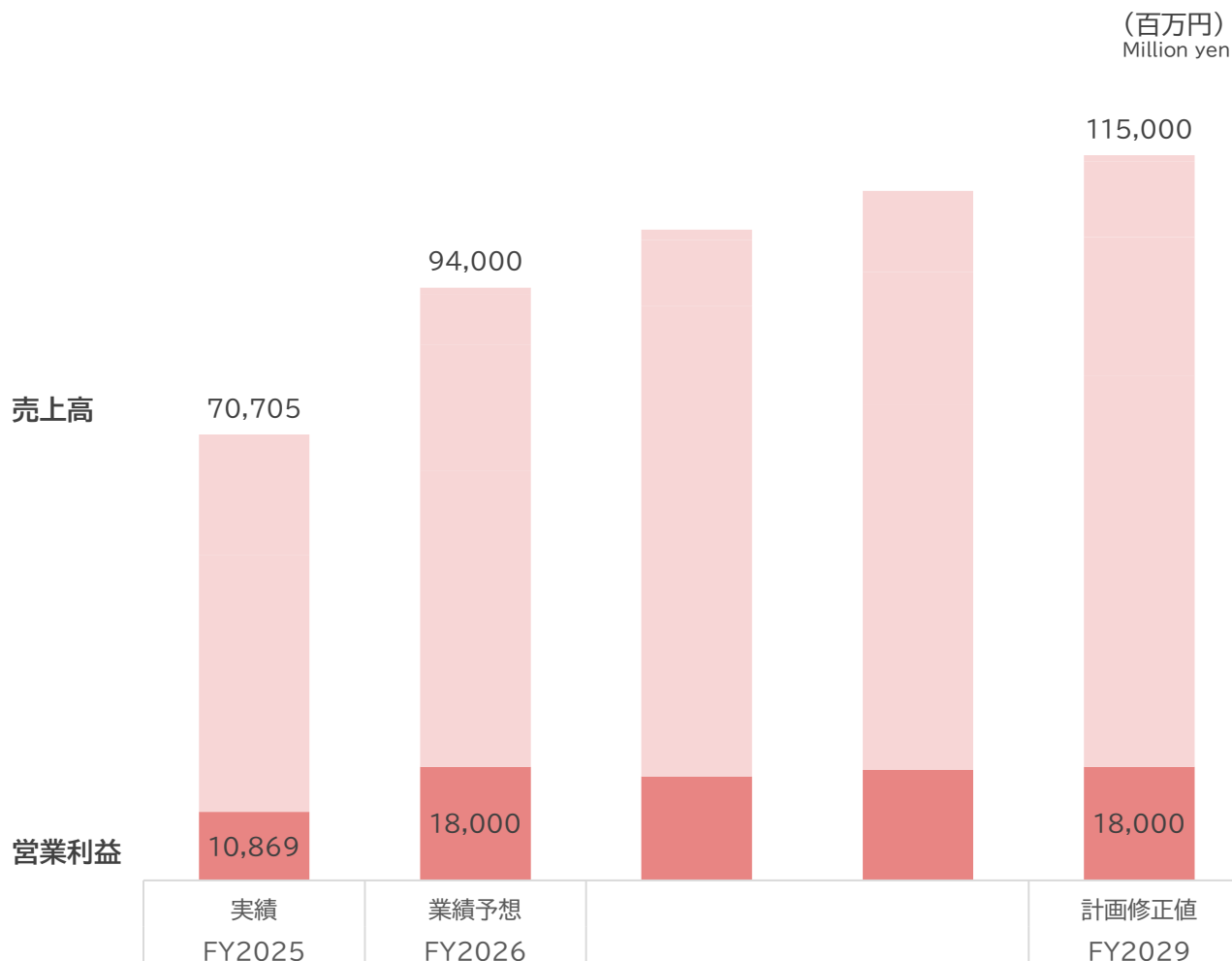
人と自然に“よりよい巡り”をもたらすことで、
皆が安心して暮らせる街づくりに貢献

戦略シナリオ

「MEGLIO」をパーパス・ブランドに位置付け、パーパスを軸とした事業活動および社会課題解決に取り組み、付加価値を創出する。市場における認知と存在価値を高め、市場に不可欠な企業として独自のポジション確立を目指す。



ファインケミカル需要の高まりを受け、「STAGE 3」最終年度の見込を売上高+150億円、営業利益+30億円上方修正する。
「STAGE 3」は2030年以降の飛躍的な成長を見据えた積極投資を実施し、坂出工場が本格的に稼働する「STAGE 3」後半は多額の減価償却費負担を見込むが、EBITDAベースでの成長を目指す。



① ファインケミカル需要の高まりを織り込み、「STAGE 3」数値見通しを上方修正

- 「STAGE 2」の達成度合いは、セグメントごとに様々だが、足元の状況を織り込んだ新たな事業戦略を計画。
- 既存事業の成長でChallenge1000当初計画の達成を見込むが、中長期を見据えたインオーガニックな成長の取り込みも積極的に検討。

② 「STAGE 3」は2030年以降の飛躍的な成長に向けた投資フェーズ

- 将来の成長を最優先し、先行投資を積極的に実施。
- 投資実行に伴う減価償却費が一時的に利益を圧迫しても、必要な投資は確実に進める方針。

※為替前提 150円/ドル (2026年)
140円/ドル (2027年以降)

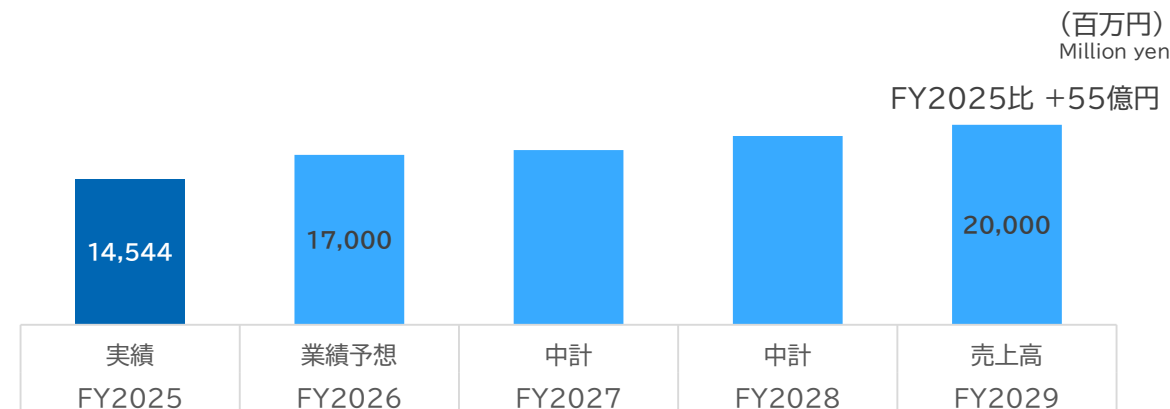
無機化成品

(26/2月開示のSTAGE3計画から変更なし)

無機化成品の売上高はFY2029で200億円を目指す。

主な施策

- ・サステナブル原料を用いた不溶性硫黄の拡販
- ・新プラントで製造した高品質な不溶性硫黄の拡販
- ・硫黄を起点とした新規開発品の拡販



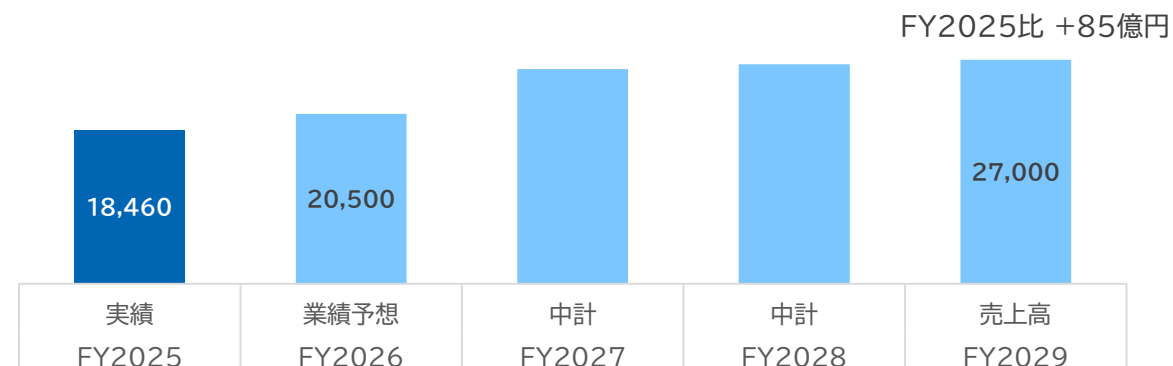
有機化成品

(26/2月開示のSTAGE3計画から変更なし)

有機化成品の売上高はFY2029で270億円を目指す。

主な施策

- ・生産体制構築による生産及び販売の拡大
- ・マーケティング強化によるBtoC製品の拡販



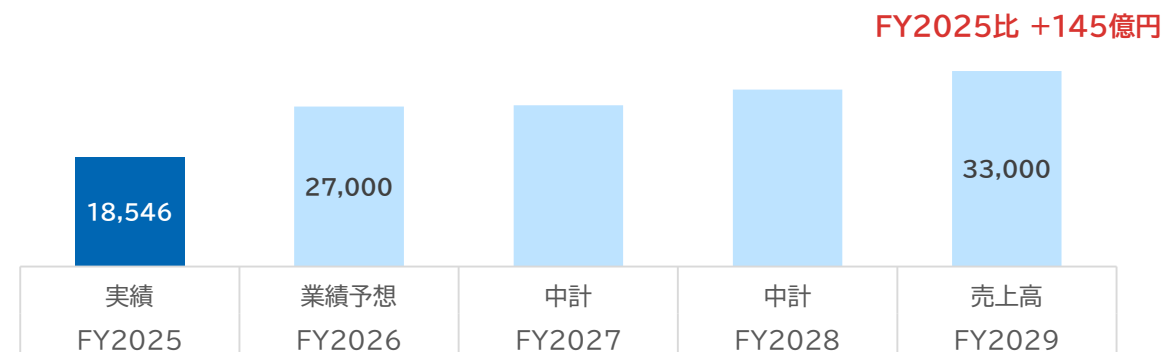
ファインケミカル

(STAGE3当初計画から売上を130億円上方修正)

ファインケミカルの売上高はFY2029で330億円を目指す。

主な施策

- ・坂出工場稼働によるGliCAP、半導体プロセス材料の需要増対応



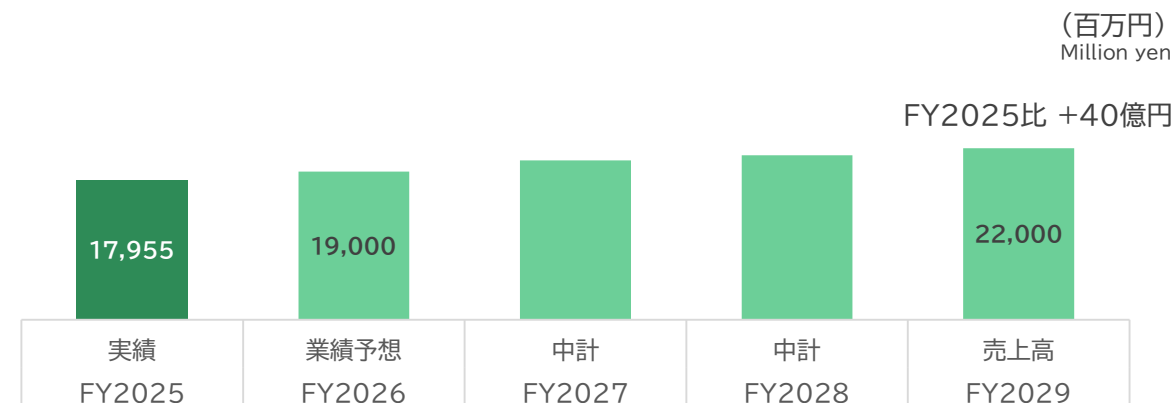
建材

(26/2月開示のSTAGE3計画から変更なし)

建材の売上高はFY2029で220億円を目指す。

主な施策

- ・強みを活かせる分野への注力
- ・新ブランド「MEGLIO」のもと、高付加価値製品ラインナップの拡充
- ・持続的成長を見据えた生産体制の再構築と収益構造改革



新規事業

(STAGE3当初計画から売上を20億円上方修正)

新規事業の売上高はFY2029で120億円を目指す。

主な施策

- ・1Qに買収が完了したTimuraya社とのシナジー創出
- ・社内公募と起業家人材育成の取り組みを強化
- ・研究機関やスタートアップと連携し、当社技術を起点とした事業を創出
- ・M&Aで、シナジーのある企業・事業を買収し事業領域を拡大



その他事業

その他事業の売上高はFY2029で10億円を目指す。

主な施策

- ・自社ブランドでの実店舗展開(フード事業)
- ・分析領域の拡大や自治体との連携(環境事業)



複数のセグメントで将来事業を支える製品群の育成に注力する。
また、CVC設立を通じてコア領域である化学・建材事業のほか、新規事業領域にも展開し事業領域の拡大を目指す。

FY2029 売上規模

10億円以上
30億円未満

10億円未満



硫黄を起点とした
新規開発品

市場：非開示
要因：顧客評価の進展
寄与：中計期間後半からの
寄与を想定



サニタリー分野

市場：サニタリー
要因：ODM拡大、BtoC製品の拡販
寄与：中計期間で安定的に需要拡大



環境配慮型エクステリア

市場：景観エクステリア
要因：ニーズの増加
寄与：中計期間で安定的に需要拡大

既存商品

新商品

既存市場

既存市場 × 既存商品

周辺 30%

既存市場 × 新商品

新商品開発

周辺 30%

新市場

新市場 × 既存商品

新市場開拓

周辺 30%

新市場 × 新商品

多角化

新規 70%

CVC設立を通じた新規事業の探索

市場：既存領域及び、シナジーが見込める領域
要因：シナジー創出、新規事業領域への進出
寄与：中計期間後半からの寄与を想定

既存事業の延長線上にある技術・分野へ30%、
将来的に既存事業と関連可能性がある新規領域に70%の
投資を行い、「STAGE 3」期間中に複数案件の事業化を目指す。

独自技術に立脚した事業戦略と、それを支える企業風土により、優位性・独自性を生み出し維持してきた。
「STAGE 3」全社変革方針では、6つの戦略のもと、当社の強みである事業戦略と企業風土を強化し、更なる企業価値の向上を目指す。

事業戦略

独自技術を起点とした事業展開



企業風土

誠実で細やかな顧客対応

人材戦略

成長機会の強化と
人材ポートフォリオの最適化

DX戦略

データドリブン経営の推進

広報戦略

採用ブランド力・社内エンゲージメント向上

財務戦略

成長投資を支える調達と資本効率向上

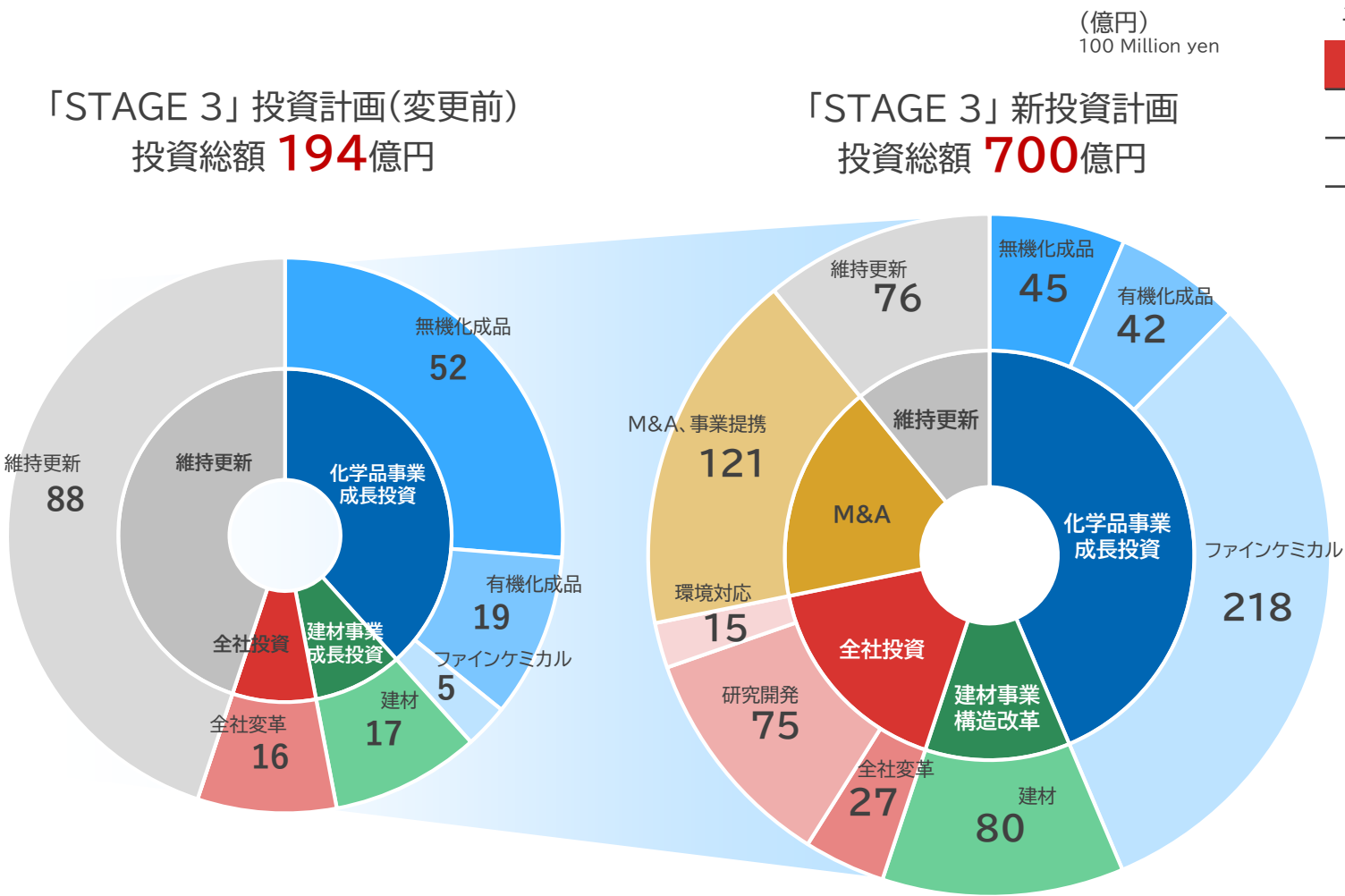
サステナビリティ戦略

安全・環境対応・品質の強化

新規事業戦略

社内事業創出＋外部連携(M&A含む)

「STAGE 3」では26-29年累計で最大700億円の投資を実施する。
坂出工場の新設等、成長投資を行うとともに、DXやR&D新棟など従業員が効率的にモチベーション高く働ける環境整備にも積極投資を実行。



年度別投資額・減価償却費

	2026年	2027年	2028年	2029年
投資額	181億円	99億円	215億円	205億円
減価償却費	37億円	41億円	67億円	79億円

投資カテゴリ	主な投資内容
無機化成品	新規開発品 プラント建設投資
有機化成品	サニタリー製品生産設備拡張
ファインケミカル	坂出工場関連投資、丸亀工場 GliCAP増産
建材	生産拠点再構築
全社変革	DX投資、基幹システム更新
研究開発	R&D新棟建設
環境対策	脱炭素関連投資
M&A	M&A80億円、新規事業投資、外部提携等

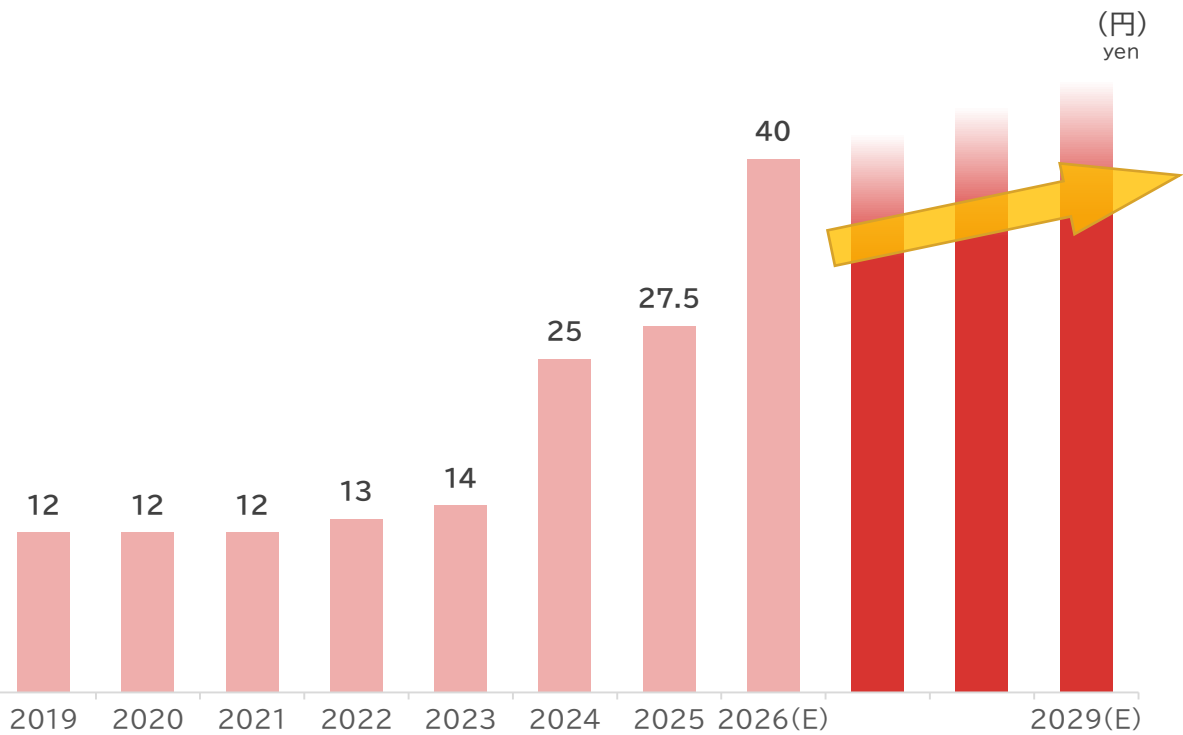
【株主還元方針】

- ・配当性向 30%
- ・総還元性向 50%
- ・DOE(連結株主資本配当率) 3%

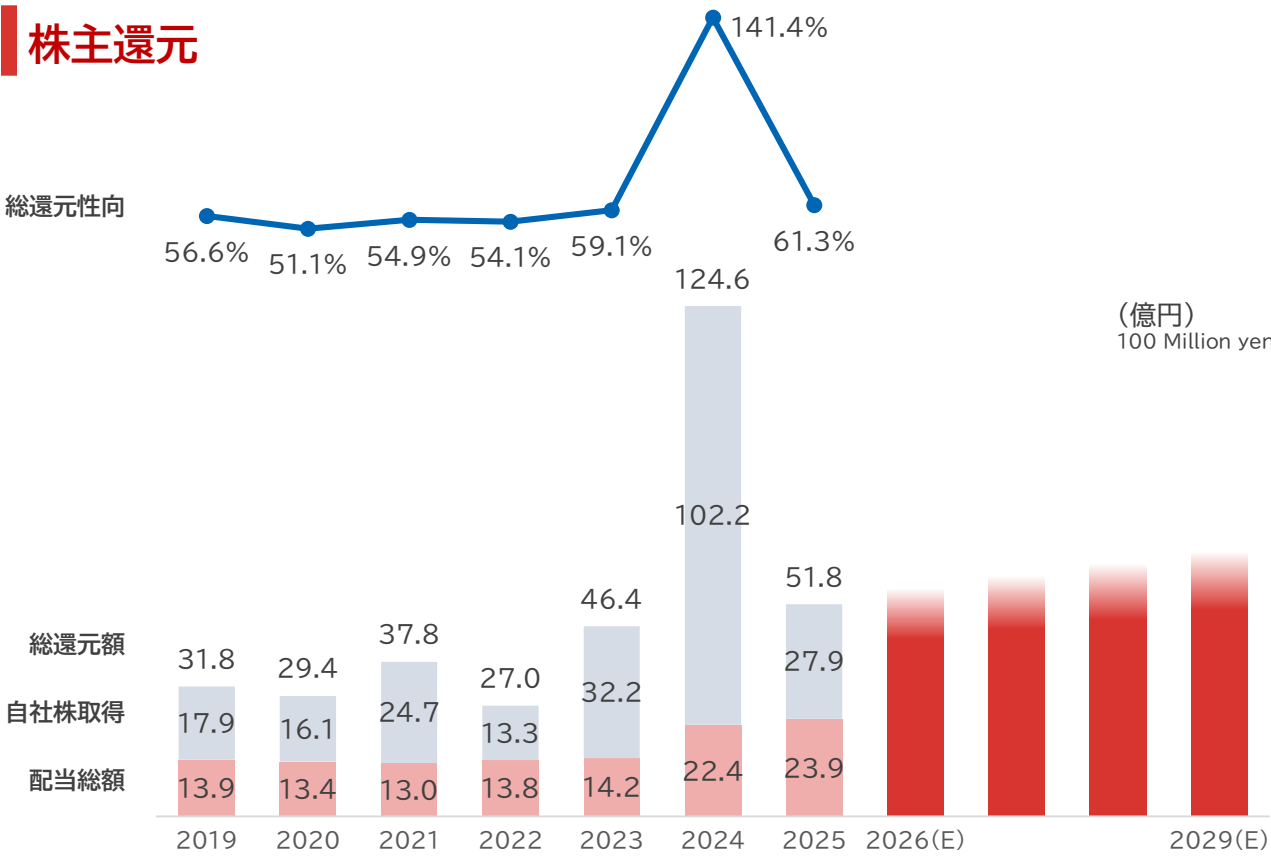
長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において、連結業績を基準として上記還元方針を目指す。

- ・安定配当と機動的な自己株式取得による株主還元の充実を図る。
- ・攻めの成長戦略と株主還元を両立し、1株当たり利益・1株当たり配当の成長を目指す。

1株当たり配当金

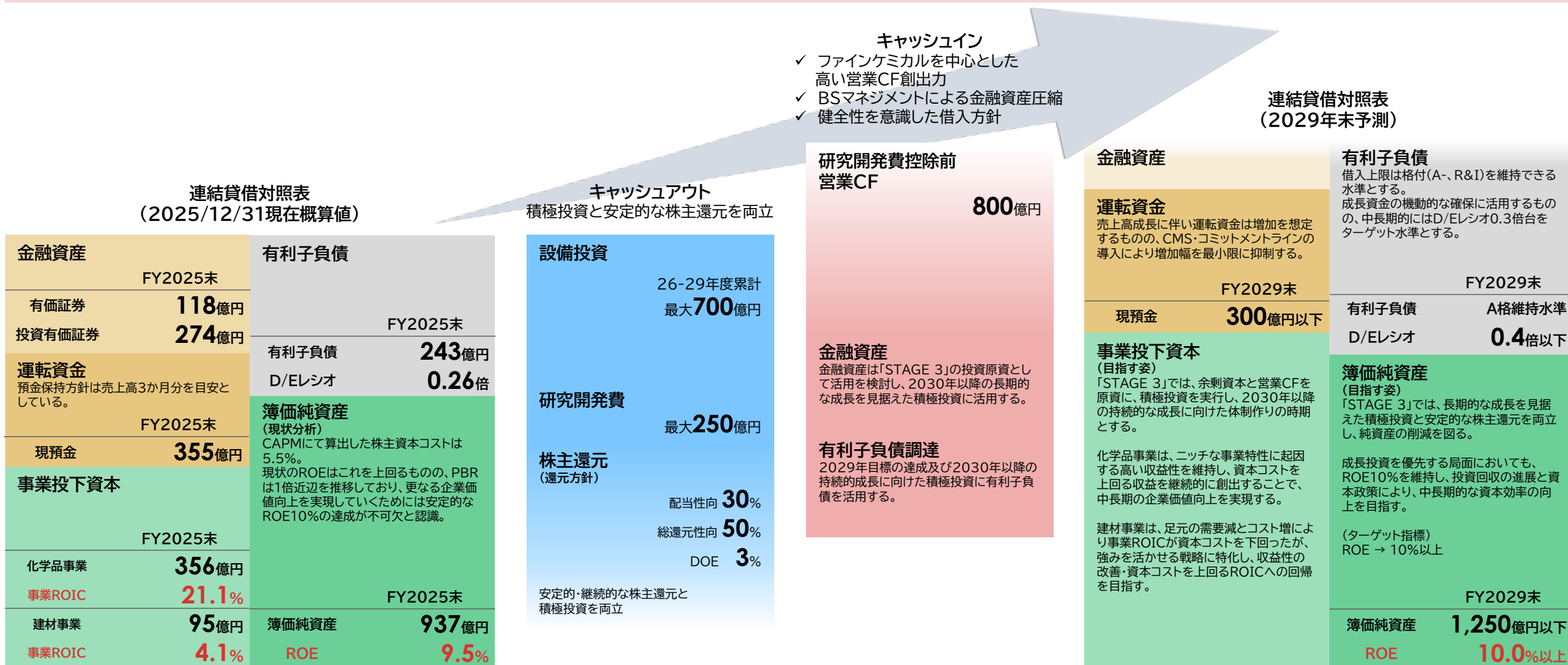


株主還元



※2026/7/1付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり配当金は分割考慮後の数値に調整しております。

「STAGE 3」では余剰資本と将来営業CFを原資に、有利子負債も活用しながら26-29年累計で最大700億円の戦略投資を実施する。余剰資本と将来営業CFを基に、成長投資と株主還元、財務健全性を両立し、中長期の企業価値向上を実現する。



マテリアリティ(優先課題)

当社の取り組み

目標項目：2029年目標値

①いきいきと活躍できる 職場環境づくり

- ・ワークライフバランスの推進
- ・柔軟で多様な働きかたへの取り組み
- ・従業員の心と体の健康増進
- ・多様な人材の登用と活躍
- ・ハラスメント撲滅に向けた実効的な取り組み

- ・従業員サーベイによる高エンゲージメント者比率：5ポイントのスコア向上
- ・ストレスチェックによる高ストレス者比率：5 %以下
- ・年次有給休暇取得率：75 %/人以上
- ・健康経営優良法人：ホワイト500 認定
- ・女性管理職比率：10 %以上
- ・障がい者雇用率：2.5 %以上



②安全操業・環境保全・安定 品質の追求

- ・安全文化の醸成
- ・脱炭素社会移行への貢献
- ・安全/環境/品質に対する設備投資の実行
- ・レスポンス・ケア活動の推進
- ・コンプライアンス・リスク管理の強化
- ・持続可能なサプライチェーンの構築

- ・休業災害：0 件/年度
- ・GHG排出量：33.6 %減・2021年度比
- ・使用電力の再生可能エネルギー比率：30 %以上
- ・重大な環境・品質問題の発生：0 件
- ・水使用量の削減(化学品3工場・生産量原単位)：5%減・2020年度比
- ・新規お取引先様へのCSR適合の要請：100 %



③新たな事業機会への挑戦

- ・社会課題解決に向けた製品、サービスの創出
- ・オープンイノベーション推進
- ・挑戦する風土醸成、人財育成、制度設計

- ・新規サステナビリティ貢献製品・サービス及び、既存事業の枠にとらわれない新規事業創出による売上高：100億円
- ・新規事業部門の体制整備：基本運用システム運用・改善
- ・既存事業の売上高：900億円



ご清聴ありがとうございました

5. 参考資料

Appendix

会社概要

Corporate Profile

2025年12月31日現在

■ 商 号	四国化成ホールディングス株式会社
■ 証 券 コ ー ド	4099(東証プライム市場上場) 業種:化学
■ 創 立	1947年10月10日
■ 本 社 所 在 地	香川県丸亀市
■ 社 長	渡邊 充範
■ 資 本 金	68億67百万円
■ 従 業 員 数	1,331名(連結)
■ 売 上 高	707億円(連結・2025年12月期)

化学品事業（四国化成工業株式会社）

無機化成品



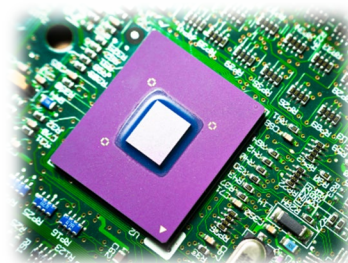
タイヤ原料等

有機化成品



プール・浄化槽の
殺菌消毒剤等

ファインケミカル



電子部品用途薬剤
(プリント配線板向け薬剤、
樹脂改質剤等)

建材事業（四国化成建材株式会社）

壁材



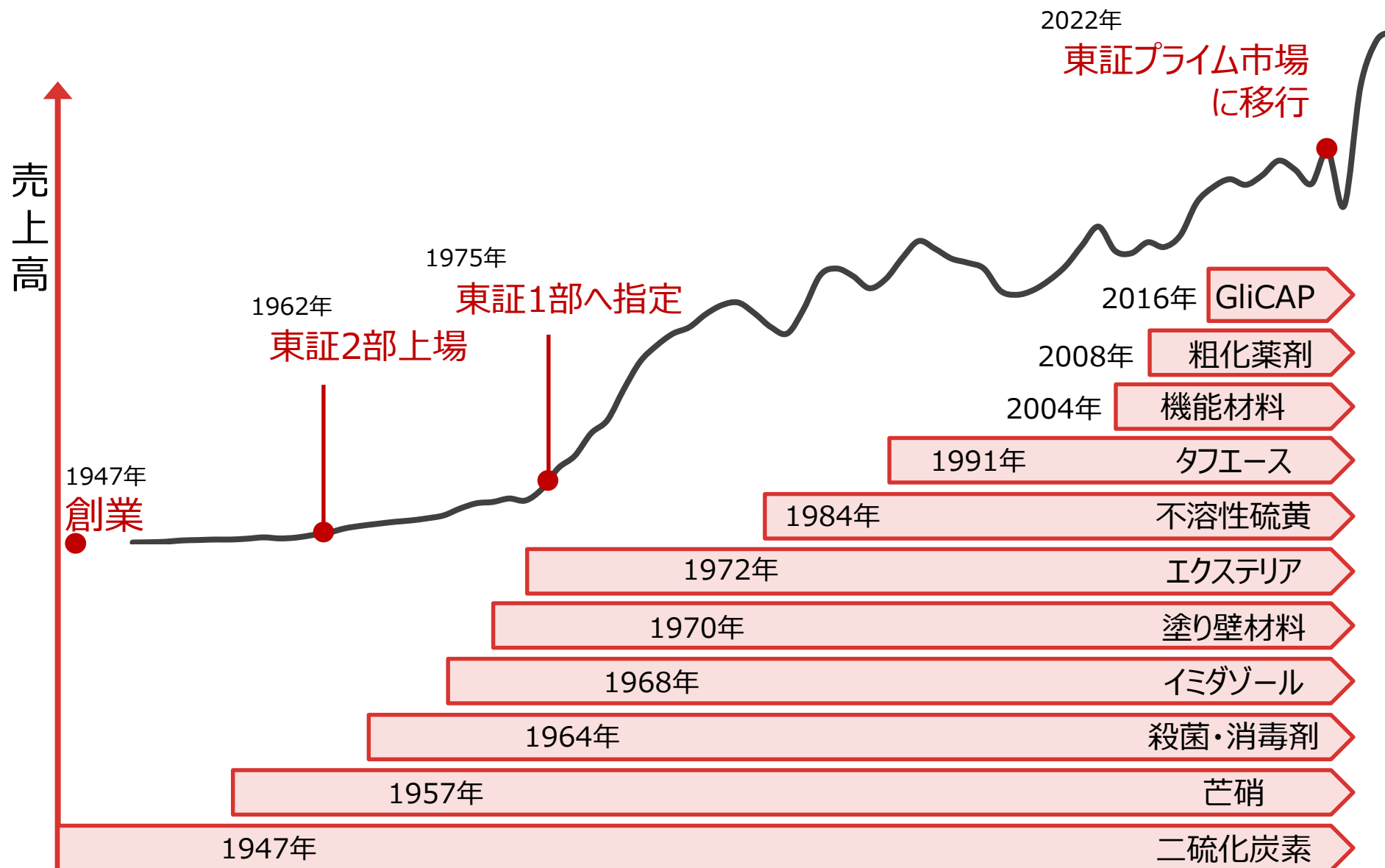
壁材
(内装材、外装材等)

エクステリア



エクステリア
(カーポート、門扉等)

1947年10月	香川県丸亀市において、二硫化炭素(⇒無機化成品)の製造を目的に資本金200万円をもって設立
1957年10月	徳島第一工場（現・徳島工場吉成事業所）建設、中性無水芒硝（⇒無機化成品）の操業を開始
1962年 6月	徳島第二工場（現・徳島工場北島事業所）建設
10月	東京証券取引所第2部に上場
1964年 5月	徳島第二工場において、塩素化イソシアムル酸（⇒有機化成品）の初の国産化に踏み切り、操業を開始
1969年12月	プリント配線板などの電子部品用水溶性防錆剤（後のタフエース（⇒ファインケミカル））の販売を開始
1970年 9月	建材部門進出を図り、徳島第二工場において内装壁材（JULUX）の生産を開始
1972年 6月	アコーデオン門扉（⇒エクステリア）の製造・販売を開始
1975年 3月	東京・大阪両証券取引所第1部に指定
7月	香川県多度津町に多度津工場建設
11月	徳島第二工場において、イミダゾール（⇒ファインケミカル）の本格生産を開始（'68年より試験生産）
1981年 6月	ロサンゼルスに駐在員事務所開設（85年にS I Cとして現地法人化）
1984年 7月	丸亀工場において、不溶性硫黄（⇒無機化成品）の生産を開始
1992年 9月	香川県宇多津町に研究センター（現・R & Dセンター）開設
1995年10月	埼玉県嵐山町に嵐山工場建設
2006年 7月	上海に現地法人 四国化成（上海）貿易有限公司 を設立
2008年	プリント配線板用粗化薬剤（⇒ファインケミカル）の販売を開始、丸亀工場にタフエース新プラント建設
2013年 8月	徳島工場に機能材料生産設備TAP-3(Tokushima Advanced Chemicals Plant-3)を建設
2014年 9月	国内唯一の二硫化炭素生産会社である日本硫炭工業（株）を連結子会社化
2015年 4月	台湾及びシンガポールに事務所開設
2017年 4月	日本工機（株）を子会社化
2021年 7月	徳島工場に機能材料生産設備TAP-4(Tokushima Advanced Chemicals Plant-4)を建設
2022年 4月	東証の市場区分再編に伴い、プライム市場に移行
4月	徳島工場に塩素化イソシアムル酸の新生産設備（NEO2022）を建設
2023年 1月	持株会社に移行し、社名を四国化成ホールディングスに変更、化学品と建材事業、間接部門を分社化

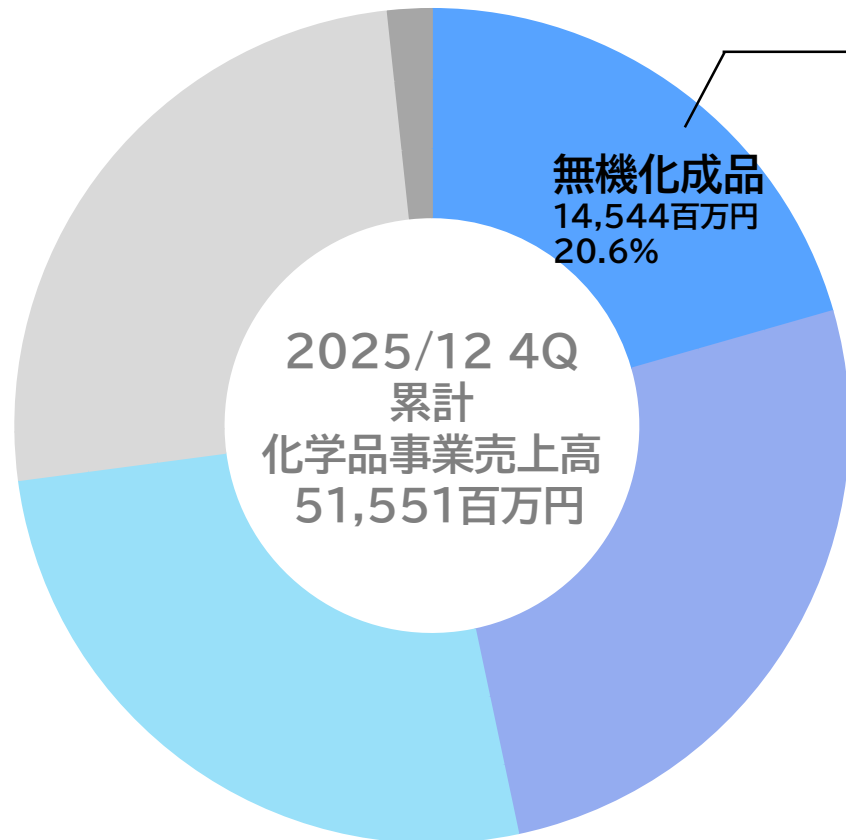


化学品事業

Chemicals Operations

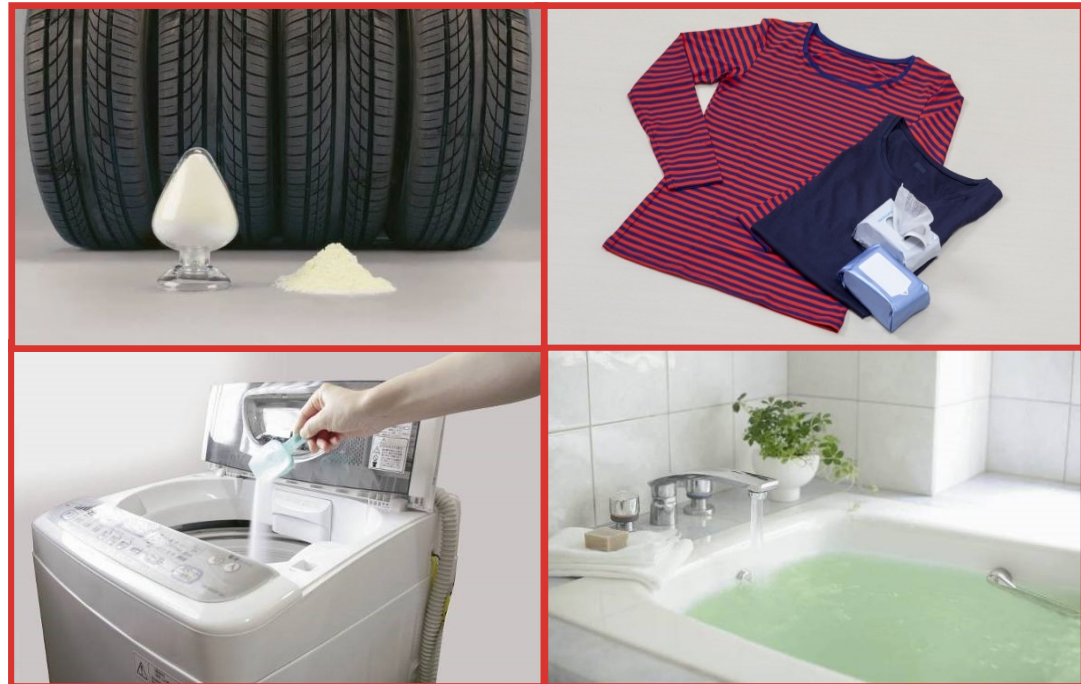
化学品事業
1. 無機化学品

Chemicals Operations
Inorganic Chemicals



【主要製品】

- 二硫化炭素 ... 化学繊維レーヨンの必須材料
- 不溶性硫黄 ... ゴム加硫剤
- 無水芒硝 ... 入浴剤の温浴効果促進剤
合成洗剤の洗浄助剤



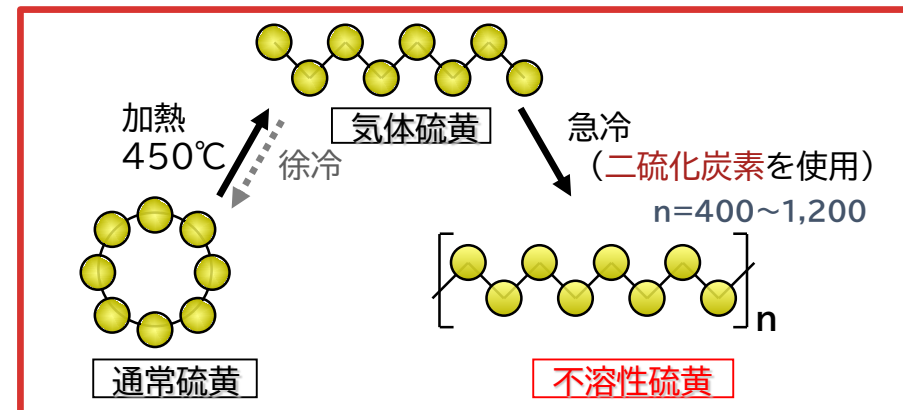
不溶性硫黄 – 製品紹介 –

- 用途：ゴム加硫剤
- 主要顧客：国内外のタイヤメーカー
- 原料のゴムは硬い状態であり、硫黄を加えて加熱（加硫）することで、伸びて縮む特性を持つようになる。
- ラジアルタイヤの生産工程で通常硫黄を使用した場合、ゴムの表面に硫黄がブルーミング（析出）し、ゴムの接着不良の原因となる。
不溶性硫黄は、原料ゴムに分散状態にいるため、ブルーミングを抑制できる。
- 不溶性硫黄の生産には、創業製品である「二硫化炭素」の高い取り扱い技術が必要である。
- 不溶性硫黄は、タイヤメーカーから高い品質が求められている。
- 2024年、新プラントの増設により生産能力を約1.2倍に増強予定である。

■ 不溶性硫黄

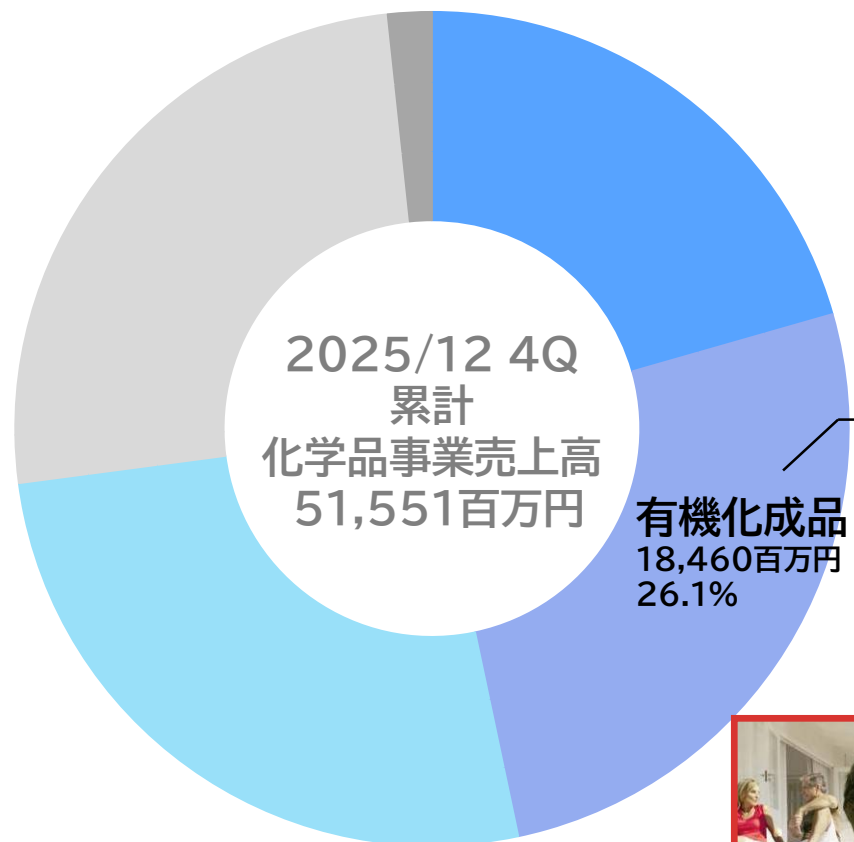


■ 不溶性硫黄の製造工程（模式図）



化学品事業
2. 有機化成品

Chemicals Operations
Organic Chemicals



【主要製品】

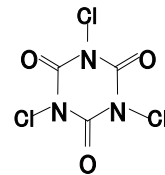
- 塩素化イソシアヌル酸…プール・浄化槽の殺菌消毒剤(ネオクロール)
サニタリー製品
- ハイポルカ …排水・汚泥処理剤



塩素化イソシアヌル酸 – 製品紹介 –

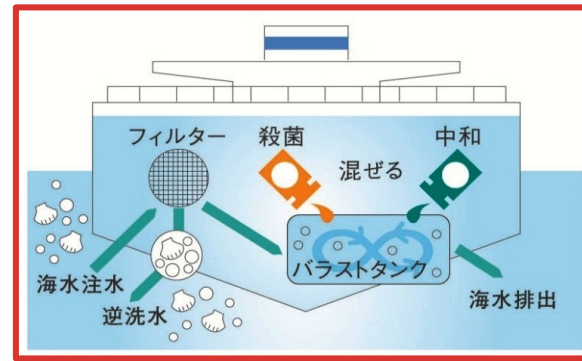
- プール用殺菌消毒剤「ネオクロール」は、他のプール用殺菌剤に比べ紫外線による分解が少なく、屋外プールでも長持ちする点や、長期間保存しても品質低下がほとんどない点が特長。
- 用途 : プール・浄化槽の殺菌消毒剤、業務用風呂・家庭用の塩素系衛生処理剤
- 主要顧客 : プール業者、学校、一般消費者(米国)
- プールや業務用風呂の自動塩素管理システム「ナピックス」で強みを持つ。
- 塩素が持つ強力な酸化・漂白・洗浄力を活かして、業務用・家庭用のサニタリー分野や、バラスト水（船底に積む重石として用いられる海水）処理、飲料水用途、各種施設での衛生管理用途などの様々な分野に展開中。
- 2022年10月、自社ブランド製品「WASHMANIA(ウォッシュマニア)」洗濯槽クリーナーを販売し、BtoC市場へ事業領域を拡大。

■ ネオクロール 製品群



塩素化イソシアヌル酸

■ バラスト水殺菌のイメージ



「ネオクロールマリーン」荷姿

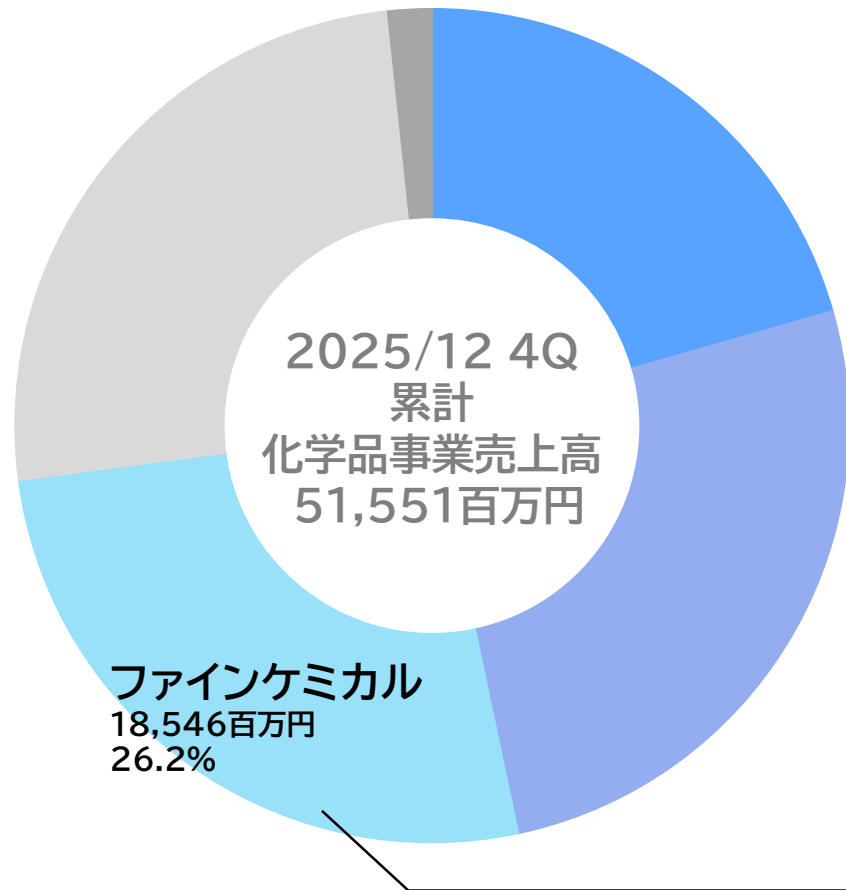
■ WASHMANIA



化学品事業

3. ファインケミカル

Chemicals Operations
Fine Chemicals

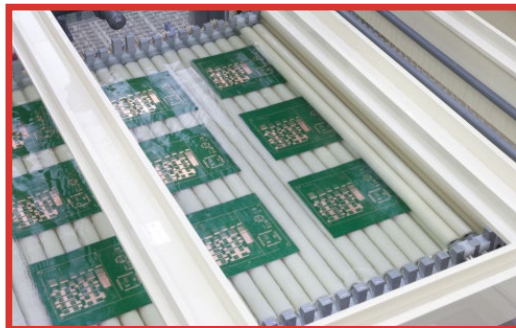


【主要製品】

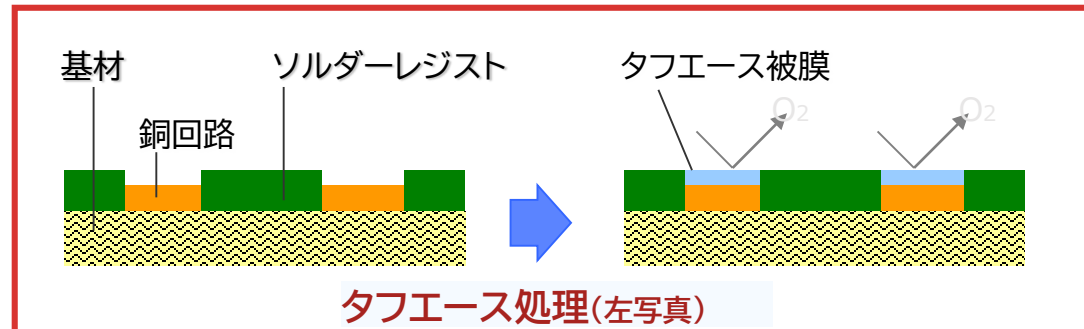
- 電子化学材料…プリント配線板関連薬剤
 - ①水溶性防錆剤タフエース
 - ②密着性向上プロセスGliCAP
- 機能材料…有機合成力を生かした中間材料の開発・受託製造
 - ①樹脂硬化剤(イミダゾール類)
 - ②樹脂改質剤(グリコールウリル誘導体他)
 - ③半導体プロセス材料
- セイク … 耐熱電線ワニスの原料
- インク類 … ソルダーレジスト

- 用途 ：プリント配線板向け水溶性防錆剤
 〔OSP:Organic Solderability Preservative〕
- 主要顧客：世界のプリント配線板メーカー
- **プリント配線板**の銅回路上に有機皮膜を形成し、露出した銅回路が酸化するのを防ぐことで、実装工程で良好なはんだ付け性を確保し、信頼性の高い電子部品製造に貢献する。
- OSPの主成分は、銅へ選択的に化学反応する特性を持つイミダゾール。
当社はイミダゾールメーカーでもあり、OSPの要求特性にあわせて主成分を合成できる点が強み。
- プリント配線板の防錆剤は、OSPの他にも金属めっき等があるが、OSP比率は過半を占め、なお上昇中。
- タフエースは主要電機メーカーの材料指定を多数取得し業界標準に。
他社に先んじて環境性能を高め、**自動車用電装部品** や **半導体パッケージ基板**でも採用実績が拡大中。

■ タフエース処理槽を通るプリント配線板



■ タフエース処理（模式図）



■ GliCAP® (グリキャップ)

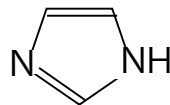
- プリント配線板の銅回路と樹脂の密着性向上剤。
- 従来は、銅を粗化（エッチング）することで表面に凹凸をつくり、“機械的結合”（アンカー効果）で樹脂との密着性を向上させてきた。
- 半導体の高性能化につれて、高性能な半導体を実装するパッケージ基板では、銅回路幅が超微細化し、銅の粗化が困難になりつつある。
- GliCAP® は、「樹脂と強く結合する性質」と「銅と強く結合する性質」の両特性をあわせ持ち、銅表面を粗化することなく、“化学的”に密着力を向上できる。
- AIの普及やデータセンターへの投資増により、従来よりも高速伝送特性が求められる基板の需要が急増しており、化学密着によって高速伝送に寄与するGliCAP®の販売が増加している。
- 現在は高周波用サーバー基板やパッケージ基板向けで量産化されている。
また、将来的にはプリント配線板以外の市場への応用も視野に入れている。



- 用途:エポキシ樹脂※の硬化剤・硬化促進剤
- 主要顧客:樹脂材料メーカー、電子部品メーカー
- イミダゾールはエポキシ樹脂・ウレタン樹脂などの**硬化剤**、**医農薬原料**、**防錆剤**など各種工業薬剤の原料などに幅広く使用される。
- 当社売上高の大半はエポキシ樹脂硬化剤用途。
イミダゾールを配合したエポキシ樹脂は、**電気・電子部品**用途に最適な特性を持つ。
- 多品種のイミダゾールを揃え、ユーザーの求める多様な硬化速度・性能に対応。
- これまで競合品(非イミダゾール系)が強かった分野・用途でも、製品の性能向上のため顧客がイミダゾールを新たに採用する動きがある。

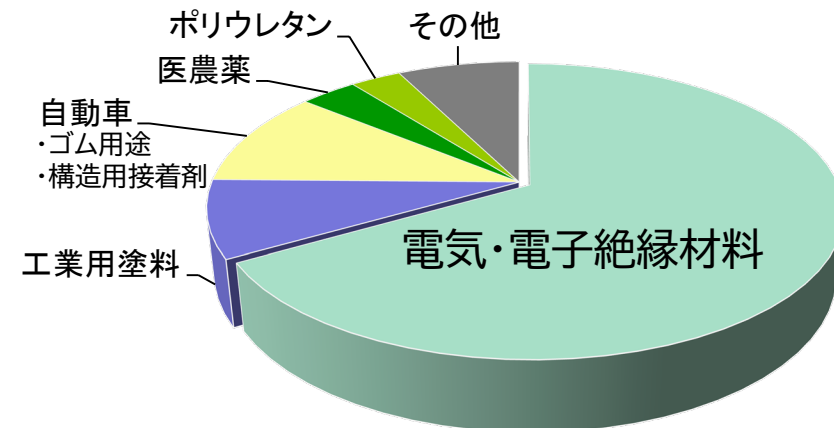
※ エポキシ樹脂:分子の末端に反応しやすいエポキシ基をもつ樹脂状の化合物、およびその化合物と硬化剤と重合させて生じる熱硬化性の合成樹脂。接着剤のほか、プリント配線板、塗料などに用いられる。

■ エポキシ樹脂が使われる電子部品(例)



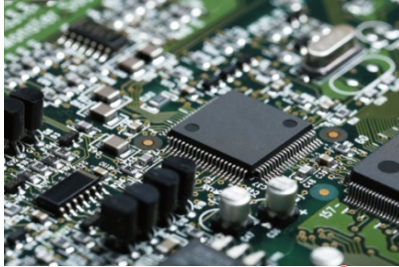
イミダゾール

■ 当社イミダゾール類の用途



エンジンのECU

〔積層板、封止材、ソルダーレジストインク〕



ボンネット

〔CFRP(強化炭素繊維)〕

カーナビ〔液晶シール材〕



骨組み部

〔構造用接着剤〕

電装モーター

〔絶縁粉体塗料〕



タイヤ〔タイヤグリップ向上薬剤〕

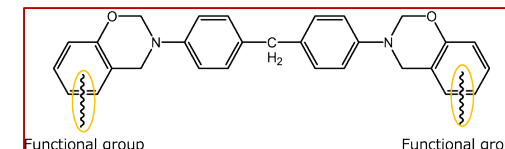
エアホース

〔アクリルゴム薬剤〕



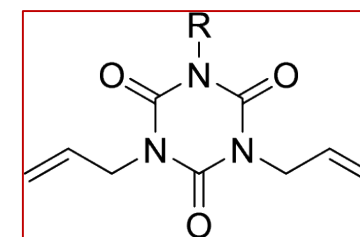
■ ベンゾオキサジン

- 耐熱性・難燃性・電気特性に優れた樹脂。
- 炭素繊維強化プラスチック(CFRP)や半導体の封止材向けで検討が進んでいる。



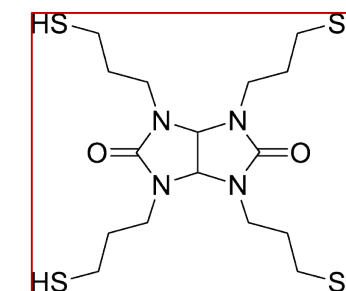
■ イソシアヌル酸誘導体

- 当社が蓄積してきたイソシアヌル酸合成技術を活用して開発した。
- 耐熱性・耐光性・透明性に優れ、様々な官能基を導入可能。
- 封止材料などの改質剤に使用されている。



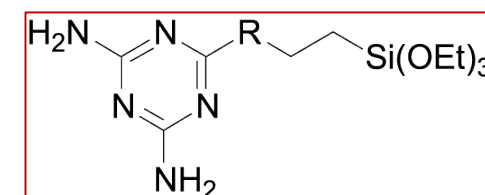
■ グリコールウリル誘導体

- 多官能・透明・高耐熱性の樹脂改質剤。4つの官能基を持ち、高架橋密度の硬化物が期待できる。
- 官能基にチオール基(-SH)を有する製品は、低温で速やかにエポキシ樹脂を硬化し、従来の改質剤と比べ、硬化した樹脂は耐湿性など様々な特性に優れる。
- 高性能化や小型化が進む電子材料分野で、採用されている。



■ 新規密着性付与剤(VD)

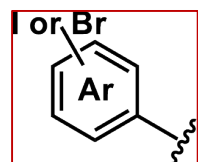
- 樹脂に添加することにより、金属などの無機材料との密着性を改善することができる樹脂改質剤。
- 従来品の課題であった金属腐食性を改善できる。



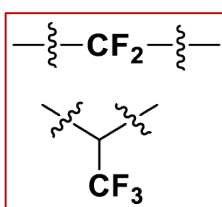
■ 有機合成技術

- 半導体プロセス材料は、半導体の超微細回路化に伴い、使用される材料の合成難易度が高まっているが、当社が保有する有機合成技術を背景に新規案件(受託・オリジナル材料開発)を獲得している。

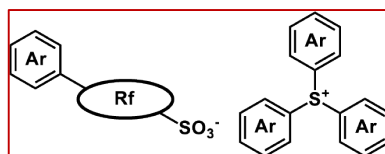
ヨウ素・臭素化



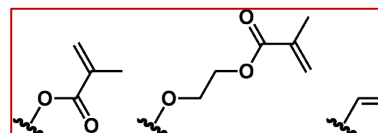
フッ素化



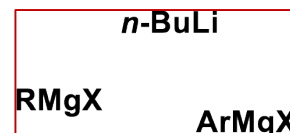
イオン交換反応



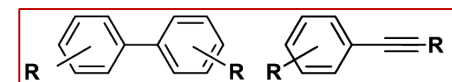
重合性置換基導入



有機金属反応



カップリング反応



■ 製造技術

- 最先端材料の需要拡大を見込み新設された、新プラント「TAP-4」が2021年7月より稼働を開始した。
- 「TAP-4」は、低金属管理など高い品質管理に対応した設備。これまで培った製造技術と合わせて、複雑高度な合成プロセスにも対応。

■ イエロールームを完備した製造プラント(徳島工場)



建材事業

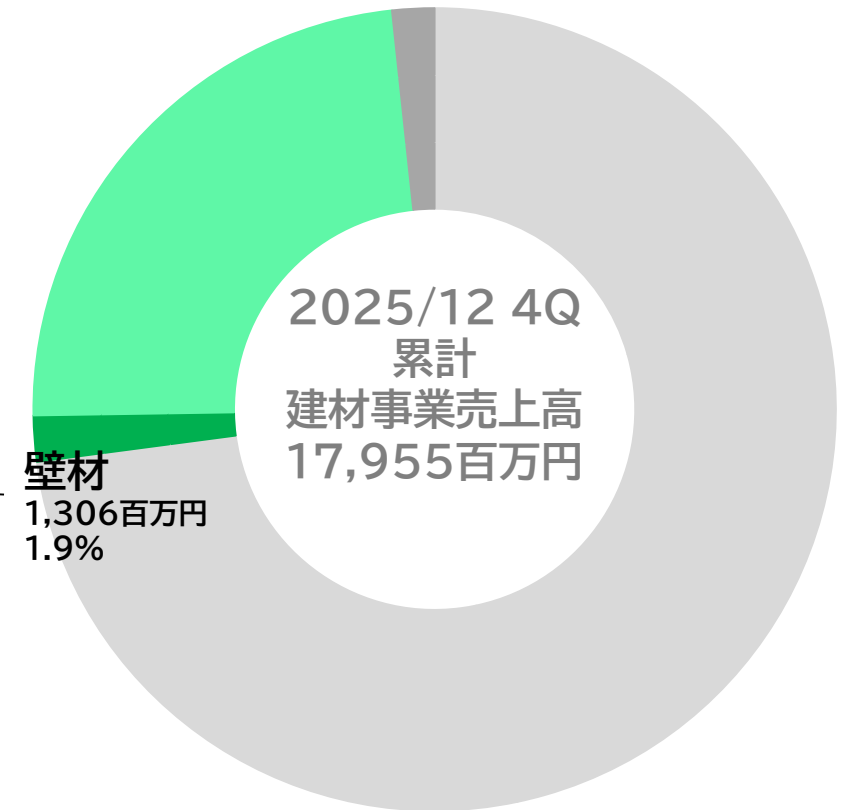
Housing Materials
Operations

建材事業
4. 壁材

Housing Materials Operations
Interior, Exterior Finishes and Paving Materials

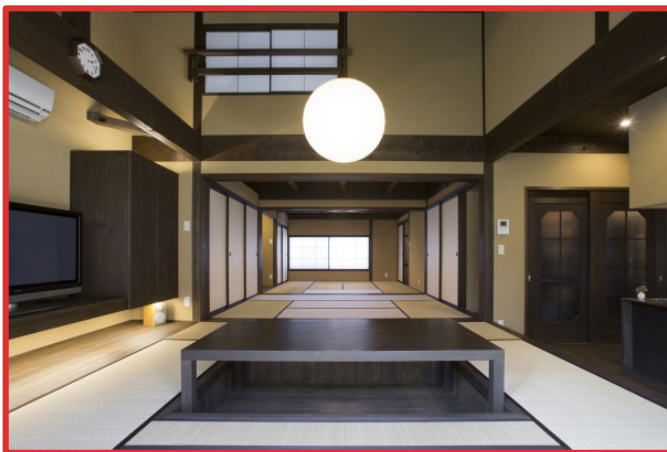
【主要製品】

- 内装材(けいそう壁・自然素材壁)
調湿機能、有害な化学物質や生活臭の
吸着・分解機能をもつ塗り壁材
- 外装材
住宅向け湿式外装材
- 舗装材
天然石舗装材、リサイクルガラス舗装材
ゴムチップ舗装材



- 内装材
 - 自社製化学糊料CMCの用途展開として開発した、塗り壁材における日本初の工業製品「JULUX(ジュラックス)」が発祥。
 - 日本の伝統的な壁である聚楽壁は取り扱いが難しいが、当社の壁材は所定量の水を混ぜるだけで均一な品質を保つことができる。また、塗り壁はシックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドなどの化学物質やニオイを吸着する性能が高いため、改めて注目されている。
 - 商業・公共空間設計やこだわりある注文住宅をターゲット市場とする高意匠性を特長とした商品展開を行っている。厚塗りを活かした立体感と多様な模様付けにより、空間に彩りと表情がもたらされる。

■ けいそうジュラックス土壁（内装材）



■ クレアデコール（内装材）



- ◻ 外装材・舗装材
 - ◻ 建物やエクステリアの外側を覆う「外装」、道路やアプローチの表面を覆い固める「舗装」にも展開。
 - ◻ 外装材はカラーを含め豊富なバリエーションがあり、表面のテクスチャーまで手作業で仕上げるため、微妙な表情が可能。舗装材では、天然石、天然砂、ゴムチップ等の素材を揃える。
 - ◻ 外装材・舗装材ではエクステリアの商流を活かし、相乗効果を生み出している。

■ 弾性パレットクリームHG（外装材）



■ リンクストーン S（舗装材）



建材事業
5. エクステリア

Housing Materials Operations
Exterior Products

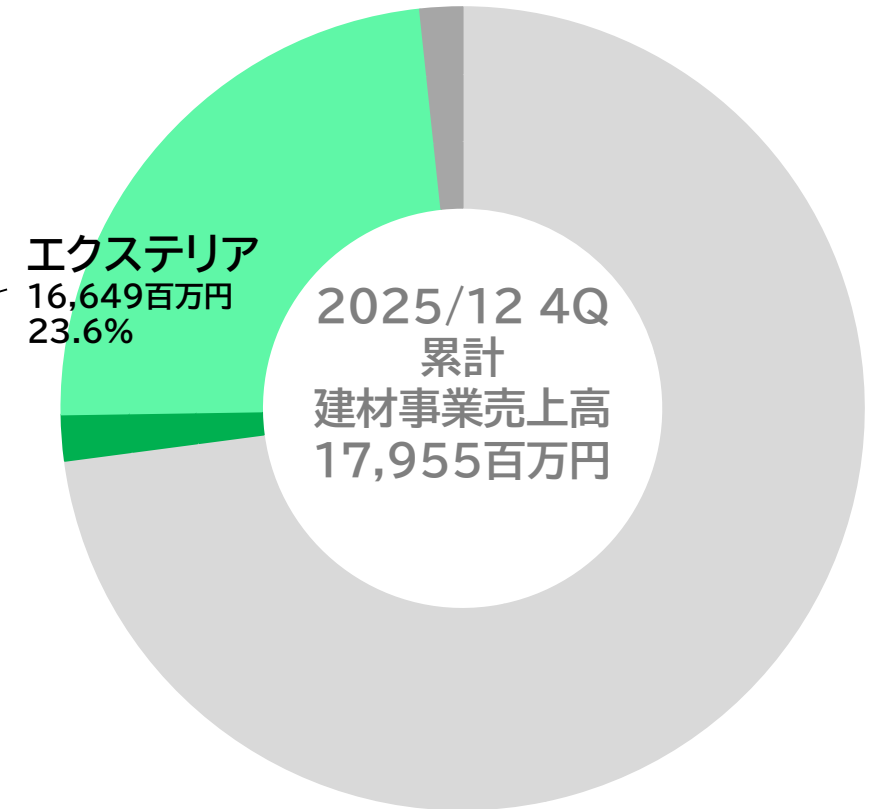
【主要製品】

住宅エクステリア

- 門扉・フェンス・カーポート・デッキ
 - アコーディオン門扉(伸縮門扉)
 - アートウォール(アルミ システム塀)
- } 業界初
当社開発品

景観エクステリア

- 大型門扉・フェンス・通路用シェルター・駐輪場
- ゴミ集積庫(業界初 当社開発品)
- 屋上緑化等



- 急速にモータリゼーションが進んでいた1972年、伸縮機構で簡単に開閉でき、日本の狭小な宅地事情にも応えた「アコーディオン門扉」を考案、車庫前門扉のスタンダードとなった。
- その後、一般門扉、車庫（カーポート）、フェンス、また、デッキ材やテラスなどに商品ラインナップを強化していった。
- 機能を重視しつつデザインにも注力しており、1984年にはエクステリア業界初の「Gマーク」（現在のグッドデザイン賞）を獲得した。
- フラットな木調の天井材を用いたシンプルで建物と一体感のあるデザインのテラス『ファンルーフ』が2019年度グッドデザイン賞を受賞した。

■ ファンルーフ（テラス）



■ マイポート 7（カーポート）



■ クレディアコー（アコーディオン門扉）



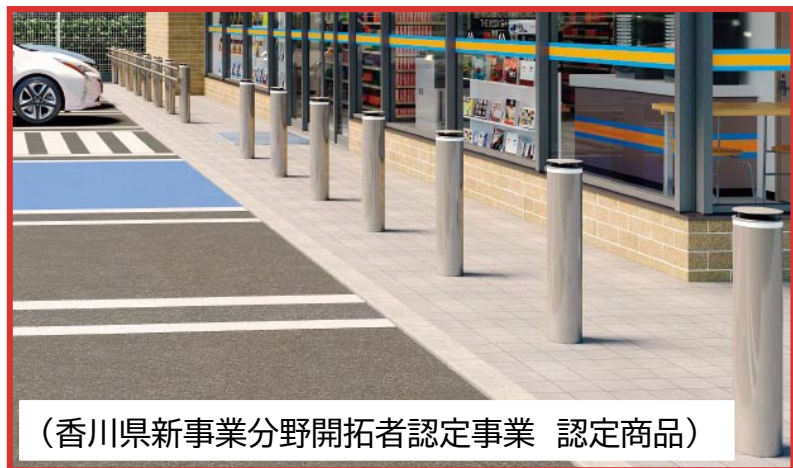
■ ライズルーフⅡ Lタイプ (通路用シェルター)



■ マイルーフ7(セブン) 駐輪場タイプ



■ GTパイル (高強度車止め)



(香川県新事業分野開拓者認定事業 認定商品)

■ ゴミストッカー PS型 (ゴミ集積庫)



- 昨今、台風など大規模な災害が全国で相次いでいることを踏まえ、当社は風雪に強い高強度のエクステリア製品のラインアップを充実し、拡販を進めている。
- 景観分野で培った強度基準・品質を全ての商品へ展開し、建築基準法に準拠した高い品質・強度の製品開発に取り組んでいる。
- 高強度商品のラインナップとして、大型フェンス、アーチウェイ、大型引戸、カーポートに加え、戸建住宅用フェンス、独立テラスの商品化を行っている。

■ 高強度大型フェンス GTFシリーズ



■ メリールーフ 積雪地用



■ マイポートOrigin 積雪地タイプ



■ 高強度大型引戸 スタックラインGT



■ 独立テラス スマートトップ 高強度用



免責事項

Disclaimer

- ◆本資料は、株主・投資家などの皆さまに当社の経営方針、計画、財務状況などの情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。
- ◆本資料に掲載されている情報は細心の注意を払って掲載しておりますが、掲載された情報の内容が正確であるか、更新時期が適切かどうかなどについて一切保証するものではありません。また、掲載された情報またはその誤りなど、本資料に関連して生じた損害または障害などに関しては、その理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。
- ◆本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績などに関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいており、リスクや不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により、これら業績などに関する見通しとは大きく異なることがあります。
- ◆以上のことをご理解いただき、投資に関する決定をされる場合には、当社が発行する有価証券報告書などの資料をご覧ください。などとして、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

お問い合わせ先
四国化成ホールディングス株式会社 経営企画室
TEL:0877-21-4119
<https://www.shikoku.co.jp>